

特集1

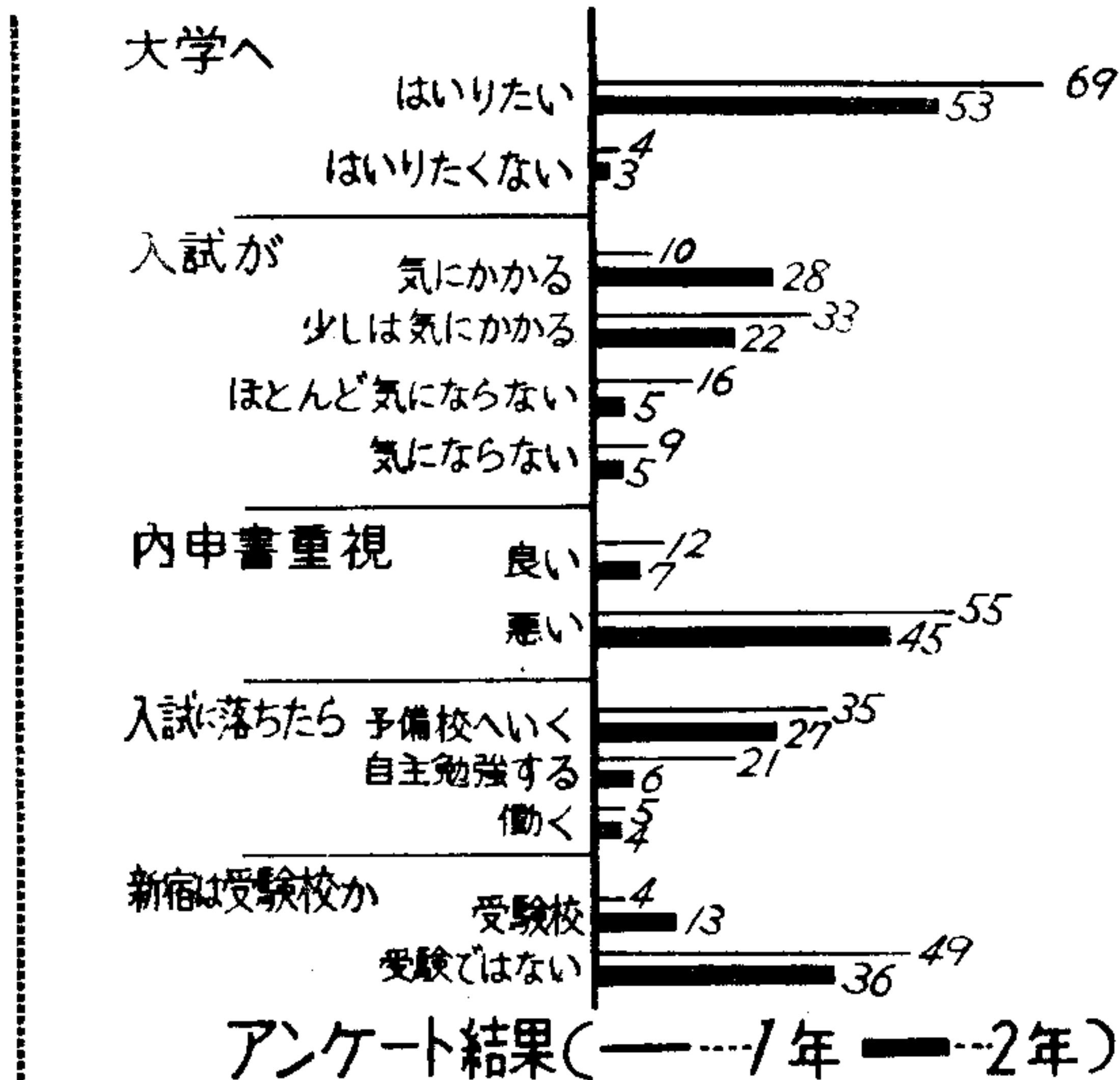
大学入試と高校生

多くの高校において制度を変革し、受験体制から脱皮しようとしている。本校においても、これを行なうべく来ている。しかし、いくら変革をしても、この変革には限度があり、すべてを理想のように変えてしまうわけにはいかない。その限度を作り出すのが、大学入試なのである。この大学入試がある以上、根本から変革できないのではないだろうか。我々はこのように考え、ここに特集として、大学問題をとり上げた。

高校生への影響

奥深い問題

高校二年とは恐ろしいものだ。大学入試を控えた生徒の悩みとあせりは二年生で徐々に頭をもたげ始めているのである。それをよく表わしているのはアンケート③である。二年生の存在が高校生活において「下宿生活」が中心の位置を占めていく。その裏では入試にとりつかれる。この原因は何だろうか。まず教師である。これは案外に多い。しかし、少なくともわが校の教師の中にはそのような風潮はほとんどないといつもよいだろう。二年の生徒に聞いてみても「教師はまあいいわ」との答えが返ってきた。教師に原因がないといふと他におげられるものは何だろうか。これを考える手段として二年に「どうして大学へ入りたいのか」という質問を行なってみた。その結果を大別すると次のようになる。(一)勉強のため(二)将来の職業のため(三)いままで述べて



入試改革と教授

今までは高校生を中心として話を進めてきたが、こんどは入試改革を行なった張本人である大学に話を進めていく。その中でまず上から見てみる。内申書重視の問題である。下の表を見ても分かるように、現在のところ大学の形式に誤差はあるにせよ内申書重視の方向にある事は事実である。ここで都立大を例に考えてみると、重視の理由は次の様になる。
①一次試験の合格者を増やすため(定員数の四倍より五倍)
②採点に手間が省けるため
③ここで問題にしたいのは②である。今までの事で分かるように

1、内申書を主とする学校	国立 3
2、推薦入学をする学校	国立 6
3、内申書に①の表示を必要とする学校	国立 32
4、内申書に評定平均の表値を示す必要とする学校	国立 25

(1969年、文部省調べ)

座談会

ものが秘んでいることを示している。卒業生に予備校へ通う事は聞いたところではほとんど「無意味」という事だ。真の教育とは、という問題が提起されていく。真剣に考えていても一たん浪人となると目の色を変え、受験一本の力に頼る。ラムに組まれた予備校へ通う。このような状態を確かめるため、このように見てもいい。これにあるように大多数の生徒が新設校は受験校ではないと断定している。しかしそれにもかかわらず、断定した彼らのほとんどが進学希望であり予備校へいきたく切望している。このためがんだ「受験校に非ざる高校」が浮き上ってくる。我々は自己に受験校ではないという暗示をかけて、その中で知らず知らずのうちに大学入試への道を歩んでいくのである。いつているのである。紛争以後遅刻が多く(ひどいものになると三十回以上)無断早退が顕著になり、ホームルームの沈滞が目についた事などもその一つの理由である。しかしこれらはただ自己の問題としてあるだけではない。もう少し問題を推し進めるならば、現在の大学入試と高校生活というものが教育のためばかりでなく、「入試問題の紙片が自分の将来を決定し、高校生活の内申書がその決定権の半分、もしくはそれ以上を占めるようになってきた」という社会情勢下にあるために起った、さまざま問題の一つなのである。そして、これはそのまま現体制の矛盾の一つであると言える。大学入試とこの矛盾が自分の頭にある感として湧き上がってくるのは二年の後半。そして我々が十分に正直であれと思えば思う程、この問題はより大きな悩みとなってくるのである。

我々の

なすべきこと

試験が終わってほっと一息大学へ行くべきか行かざるべきか。多くの人がここにきて悩む。これまで挙げてきたような矛盾があるならば、我々は大変な矛盾があるのではないだろうか。アンケート中にも進学希望なしの人が数名いるが、その中の一人の意見で「現在は能力主義であり高校を出て働いた方が将来の生活にゆとりが出来るから」というのがあった。しかし大学を望まない人の意見は二つに分かれてしまっている。そうである。結局僕が言いたいのは大学入試と現体制が言うよりも、僕たちの意識の方が大切だということだ。
A やつぱり内申書より試験の方が重要だ。
B だけども内申書も言っても、これの基になっているのは試験でしょ。
C 一生なんてかけなんだから一発勝負で落ちたら落ちたでいいじゃないですか。それにこれだけわかっていないのは個人の問題だと思いませんか。
D 入試はあくまで手段ですよ。入りたい人は全部入れればいいんです。
E たとえば定員百人の学部に入りたい人が応募しても百人を選ばなくてはならない。だから入試というのはそのために生まれた便宜上の手段であってこれが僕らの学生生活に影響を与えているのはそれを僕らが重大視するからであって、重大視しなければそれはなくなるんじゃないかと思う。いくら論文形式にしろ、僕は目についた事などもその一つの理由である。しかしこれらはただ自己の問題としてあるだけではない。もう少し問題を推し進めるならば、現在の大学入試と高校生活というものが教育のためばかりでなく、「入試問題の紙片が自分の将来を決定し、高校生活の内申書がその決定権の半分、もしくはそれ以上を占めるようになってきた」という社会情勢下にあるために起った、さまざま問題の一つなのである。そして、これはそのまま現体制の矛盾の一つであると言える。大学入試とこの矛盾が自分の頭にある感として湧き上がってくるのは二年の後半。そして我々が十分に正直であれと思えば思う程、この問題はより大きな悩みとなってくるのである。

11月闘争とは何だったのか

「一連の紛争を総括して」

＝特集2＝

＝特別寄稿＝

「いくら考えたって、どうしようもないじゃないか」十一・五闘争のいわゆる「六項目要求」の一つ、評価に関する問題はどのクラスでも同じような結論に達してしまっている。この問題に限らず、最近の各クラスの討論会はこの問題についても行き詰まり、停滞化を来している。その後、高校入試の日の混乱で幾つかのクラスで討論会を行ない、多少の盛り上りをみせたかと思われたが、一日とたためずに平常通りという有様である。

一方、全共闘はその機関紙「旗」の中で「あの激しい十一月の討論を経て、各クラスは倦怠期に入っているが、この現状を打破し、新たな局面を迎えなければならぬ」と述べて

全共闘

六九年秋の全国高等学校全学闘争は安保・沖縄という政治的風潮の吹く中を東大、日大を頂点とする大学闘争からの発展により、教育の矛盾のうっ積をエネルギーとして、まさに必然として闘われた。我々新宿高全学共闘会議は、全国の学友と連帯して闘った「11月叛乱」をここに総括する。

我々でも全国の例にみえず、生徒会の沈滞が嘆かれてから久しい。そのような状態を打破すべく、度々自治会創設や、検閲制廃止の運動が、ある時は生徒会を通じ、ある時は生徒会選挙のボイコット呼びかけというように

論壇

昨年十一月に、生徒諸君の中の有志や、いくつかのホームルームから出された要求や意見を、ここで改めてふりかえり、その後の校内生活の変化や、さらに残された問題点をみつめ、われわれ教職員・生徒の今後の進み方について考えてみたい。

あの当時に出された要求や意見のおもなものは、次の五つである。

- (1) 掲示・印刷物や集会・討論の許可制を撤廃せよ。あるいは届出制にせよ。
- (2) 現行処分制度の基準を明示せよ。
- (3) 文部省・教育庁の高校生政治的行動の規制について、学校当局に意見を述べよ。

校長

いるが、この倦怠ムードは依然、各クラスを包み込んでなかなかその場を離れようとはしない。さらに日々の授業においても同様の事が言える。この沈黙は、一体何を示しているのだろうか。今、再び問題の焦点をあの十一月闘争の出発点にあて、これを考えてみよう。一体、我々にとって十一月闘争とは何か。クラスの沈黙を打破するために考えねばならない問題とは何か。これらを解決するために、校長・全共闘に「十一月闘争の総括」に関する論文を依頼し、それぞれの立場で意見を述べてもらった。

権力と直接対決へ

政活闘争に備え組織化

1、4・28沖縄デモ、6・15反安保統一行動と、我々からもちがった隊列で街頭闘争に参加していったが、それはあくまでも学校外での隊列にすぎず、我々の中に生じた。生徒会殺しの日々が続いていた。生徒会が生徒の自由を抑制する秩序の庇護者として常に機能してきたのだ。

だが、六七年秋の羽田闘争からの全学連の果敢な闘いをまのあたりにして、ロボット工場の中で抑圧され続けてきた高校生たち(抑圧を素直に感じないほどの致命傷も多いのだが)は黙ってはいなかった。10・21反戦デモ

9・7総決起集会、九月二十七日ビラ配布者への暴行事件、そして掛川西高、青山高を中心とする高校闘争の高揚が伝えられる中で受容教育の当然の帰着としての不満分子の結集により、人数は増大していった。その討論では六項目要求を基礎に教育の矛盾、学校への不満を述べた。その中で十一月十一日、三年のひとりが新宿で決定的な敗因をなしている。

逮捕された。そのため三年が処分の防止の為に動き出し、我々(ほとんど三年)と連帯することになった。我々は「秋期大攻勢」を叫んでいたものの、まだ理論的にも未熟であったので、非常に苦しい闘いをしつづけた。連日の討論の結果、したがって第四項目(評価を前

除くほとんどの要求がのまれたが、当然にも全共闘は見離れされ、「紛争」は収束の一途をたどった。なお、この間に克ちとられた政治活動の自由に対する、都教育庁・権力の恫喝がある。これが政治闘争への突破の要素が濃かったにも関わらず、「自己変革に固執する幼稚な全共闘は何もできず、に闘争の敗北をハズストより駄目押ししていた。やがて学校にも日常性が舞い戻ってきたのであるが、分解した全共闘、及びシンパ層はどうしたらよいかわからず、授業をサボる人が続出した。全共闘もその中に解体していった。

評価の問題を検討

委員会を設置し研究

局の見解を明示せよ。

(4) 評価を前提とした試験を廃止、あるいは改革せよ。

(5) 特別審査を廃止、あるいは改革せよ。

まず、(1)については、既に次の様に諸君に伝えた。

① 論文新報・報は自主的に発行することが出来る。(事実を故意に歪曲しないこと。個人の中毒をしないこと)

② 掲示・看板・印刷物等は自主規制機関を通じて掲示・配布することが出来る。(事実を故意に歪曲しないこと。個人の中毒をしないこと)

③ 本校生徒の校内における集会・討論会については、所定の手続き(学校施設使用願に記入し、顧問の印をもらって事務室に提出する)をとり、実施することが出来る。

か、われわれ全員の努力如何にかかっている。

次に(2)については既に述べたように、本校には成文化された処分の基準はない。一般に行動には行動をとった主体者の責任がともなう。処分はそれが終りて、指導の一環として行なう。十分理解することが望ましい。

に、次の四項目を考慮するからである。

① 考えることはやさしいが行動は難しい。

② 政治に関する問題は複雑をもち、その見解も多岐にわたる。処分はそれが終りて、指導の一環として行なう。十分理解することが望ましい。

お知らせ

今回一六〇号で今年度の新聞発行を終えました。来年度はさらに紙面に充実させて行きたいと思ひます。

新聞委員会

い「とも」とされるし、「評価する時には、試験をしないで行ってくれ」ともとれるし、また「評価そのものを廃止せよ」を含んでいるものもある。

ここでは評価そのものと、五段階評価について述べてみたい。

評価は、単に区別(差別)の目的のものではなく、教育の質を測るための手段として行なうべきものである。

⑤ あるべき姿の高校教育の観点にたてば、受験のための特別審査を行なうことは望ましくないと考え、これを廃止する。

(校長 織田富勝)



発行人
都立新宿高校新聞委員会
東京都渋谷区千駄ヶ谷
6ノ2ノ1
電話(341)0040
0859
編集 新聞委員会

講演会 文化委強行へ

強固な学校側

生徒大会もめる

……7月7日、講演会をめぐる一連の問題……
……に対して、その事態を明らかにするた……
……めの臨時生徒大会が3年生から提案さ……
……れ、二百数十名の賛成者の署名を経……
……て、実施された。
……会は学校側・文化委側の2つの意見の……
……対立がみられ熱気にあふれたものとな……
……った。

文化委員会、職員会の両者の意見を聞き、事態を究明するとの主旨の臨時生徒大会は、七月七日に三、四時限をつぶして体育館で行なわれた。前日は生徒大会を開かせるか否かの問題等で職員会議内でも慎重な討論が行なわれたものであり、大会開催に異常な緊迫感があつた。

当日は議長団の中から、岩下君(2A)が議長となつたが、始めからこの生徒大会で生徒の意志の確證をしようという、一部の文化委員・全共闘・反戦委などが校長先生に対して質問をあげ、ふだんの生徒大会に

本校は教育方針として、一、考える生徒であれ、慎重な行動をとるということを含む二、明るい豊かな情操の若い人々になる。三、たくましく、強い意志をもつ。四、健康的なからだ、道徳的判斷を身につける。

二、述べたように秋田氏が安定した思想の持ち主でないため、授業の時間をさいた全校生徒にきかせる講演会の講師としては適当ではないと考える。しかしこれはあくまで授業時間をさき全校生徒にきかせる講演会に対するものであつてその他の条件ならば別問題である。

文化委員会の意見
去年までは、講演会は委員会の手で独自に計画されていたものであつた。しかし、生活指導は今年に特別指導の教師との、事前の話し合いがなかつたといつていい。しかし、これは勝手

入、職員会の採決を待つのみとなつてゐる。また物理部、工作部の作品売上の許可の申請もできており、金銭に関する問題が今後の課題となるのである。

部室の割当では、クラブ委員会九月早々にも決定されることになつてゐるが、すでに、各クラブから部室使用の申請が出されてゐる。部室には、生物教室、生物教室、英語教室、数学教室、体育教室、校長室、図書室、講堂などが使用され

移転することになった。これは、現在の部室の位置に、同窓会館(名称は未定)が設立されるために、行なわれることになつたものである。この同窓会館は、十月月上旬に工事に着手し来年三月に完成が予定されてゐる。

今週中にも部室移転
竹早高校が移転してから、およそ二ヶ月たつたが、今週、九月の第一週にその竹早が使つてゐた旧校舎へ、各クラブの部室が

論説

世に「三無主義」と言う物があるが、その中で特に最近問題になつてゐるのが「無気力」である。

最近の高校新聞で無気力の三文字を見出し出しているのは、ごく希である。

これだけ「無気力」であるために「無」が多用されている、この言葉に、どの学校も解明を施してはいないのだ。

副題を「日本文化の型」とまで言い切つた、あの「菊と刀」では日本人の無気力を次のように述べてゐる。

「日本人は国家主義的目的を抱き攻撃を自分自身の胸から転じて外へ向け、そのことよ

か克服できない。彼らは戦争がすすむと、まるで目的がなくなつてしまつたのだつた」これは無気力と目的について述べてゐるのだが、我々にも「おう目的のようなものがあるし、おとな達にも、ごく消極的にし、おこられはしな

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

義理を言ふ事を好まない。ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

生徒の無気力を探る

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

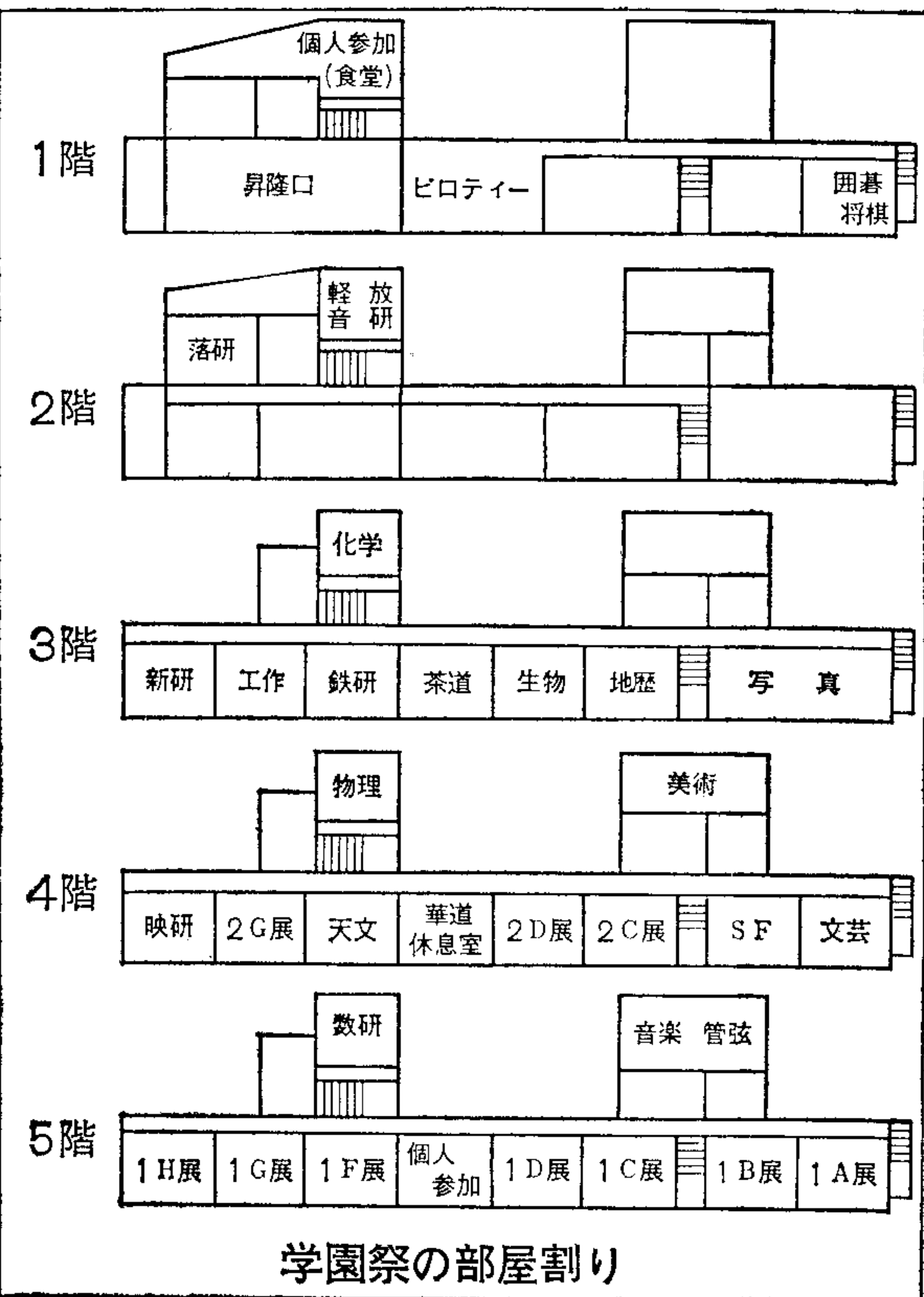
ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな



学園祭の部屋割り

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

「無気力」とは日本人の服従精神によるのだ。昔から兄、家長、おまわりさん、先生、お役人様、兵隊さん(お侍さん)、そして天皇と、あらゆる目上への服従心は、我々を行をさせた時、我々は他の人

ある人が風で帽子を飛ばしてしまつたら、それを拾つてあげるのだが、その人に義理を言つてしまふことにならな

学園祭

一斉テスト化めざす

評価の形式を改革

九月の半ばに職員会議に提案して具体的テストについて取り上げた。ここで、学力、知識、技能の三つを基本問題から始め、最終的には、テストの意義・効果について検討し評価として、次の三点を述べた。

一、テストを大別して二つに分ける。つまり、一つは教科書を通過して、平常の授業で学習される基本的な学力・知識・理解の効果を確かめるためのテストと、もう一つは、問題解決能力（応用力）に重点をおき、その方面の効果を確かめるためのテストである。

基礎学力を重視することは勿論であるが、今後は従来以上に問題解決能力を身につけるよう指導したい。そのため、授業においても思考力・判断力・問題解決能力を重視した授業を行ない、テストでは期末テストとして、学年毎の共通・応用問題を取り入れた一斉テストを行なう。

評価は人の値段

三 F 松永雄司

昨年十一月紛争における要求事項の一つに「評価を前提とした一切の試験を廃止または改革せよ」があった。他の項目はほとんど終わったのに、これだけは残ってしまった。

そして教師たちは「評価を合理的にかつ多様にするための改革」を検討している。しかし、この試みは一切無意味であり、評価問題の核心には全く関係ない。

なぜなら、問題は、評価の方法とかあり方というのではなく、評価の存在そのもののなから、評価のためのテストが、要するに資本制社会における分業のために学校教育体系は組織されている。そして各々分断された「世界のちがう」集団が競争を繰り返している。

受給競争とはこうした「世界」の獲得と喪失である。階層のハシゴを必死でのぼるという競争である。そのためにはいい評価をとっていい大学に入って、ちよつと極端だが一生を競争で走り回らなければならない。競争が我々の未来である。競争というものは競争である。全く共喰いと同じである。楽しいわけがない。だから学校はさぼりたくなる。マージャンやパチンコもしたくなる。喫茶店でふてっ面もみたくなる。だれぞ学校へ行かないや卒業できないし行ってもクラブばかりやっていって成績も落ちるから勉強しなかつた。賃金のエサにつられて走っている馬が僕達の姿だ。これは資本主義が高度な分業の中に人間を押しこめつつある。

寄稿

評価具体化へ

教師・生徒

評価に無関心な生徒

昨年十一月の紛争後、授業形態の改革及び、「評価」の検討がなされてきた。特に、評価問題では、委員会を設け、積極的に研究中である。

しかし、肝心の生徒は、これらの改革をどのように考えているのだろうか。

（問）一学期に二つあった評価は、あくまで教科内でのことであつた。また、評価委員会は、まだ絶対の権限はもっていない。正行が、集団でなされたことにより正当化されてはいけなからず。

（問）この問題に関して、三年の授業の時間に意見を聞かれたとき、生徒が意見を出さなかつた。

政経処置への解答

福井先生に聞く

（問）一学期に、六月の授業ポイコットに参加した生徒に対して、政経の評価を二つにしようという処置をなされたのは何故ですか。

（答）それは、生徒に反省をうながす手段としてとつた処置であり、決して処分ではありません。また、生徒に授業をポイコットする権利はありません。

本年三月下旬の朝陽時報一六〇号の特集の中で、評価に關して次のような二点を上げました。

(1) 新年度に委員会を作って、評価に関する問題を検討する。

(2) 評価については、何のための（目的）「何を（対象）」「どんな（基準と方法）」で評価するか？またそれをどのように「記録」するか？

等々、多くの問題がある。

四月に、三人の先生から成る評価委員会が発足しました。この委員会では、評価に関するさまざまな問題のうちの何ととりあげるべきかの検討から始まり、これらにつ

多角的な評価制

正しい方向への評価

このように、さまざまな問題をあつちやうに、評価に關して、基本的には次のような考えである。

(1) 人間は競争することによって、正しい方向へ発展することが可能である。

(2) 評価することが教育効果の向上、マイナスをもたらす。

ここにみじめにうごめいていた「だ」なんて思うと、こんどまた我々が立ち上がって始める以外には解決などない。

話をもちにもとより、簡単なことだ。評価（内申書）は商札である。値段のつけ方を変えたがっている先生方、何にも変わりはしない。「紛争の被害者

我々のみじめなエネルギー消費の裏にはこうした分断、差別の大きなほら穴があいている。こうしてまとめておけばわれわれの競争とは給料を多くとるための競争、すなわちいかに自分の労働力を高く売るかという競争である。そのためにはいい評価をとっていい大学に入って、ちよつと極端だが一生を競争で走り回らなければならない。競争が我々の未来である。競争というものは競争である。全く共喰いと同じである。楽しいわけがない。だから学校はさぼりたくなる。マージャンやパチンコもしたくなる。喫茶店でふてっ面もみたくなる。だれぞ学校へ行かないや卒業できないし行ってもクラブばかりやっていって成績も落ちるから勉強しなかつた。賃金のエサにつられて走っている馬が僕達の姿だ。これは資本主義が高度な分業の中に人間を押しこめつつある。

評価の民主性に疑問

三 C 光岡則夫

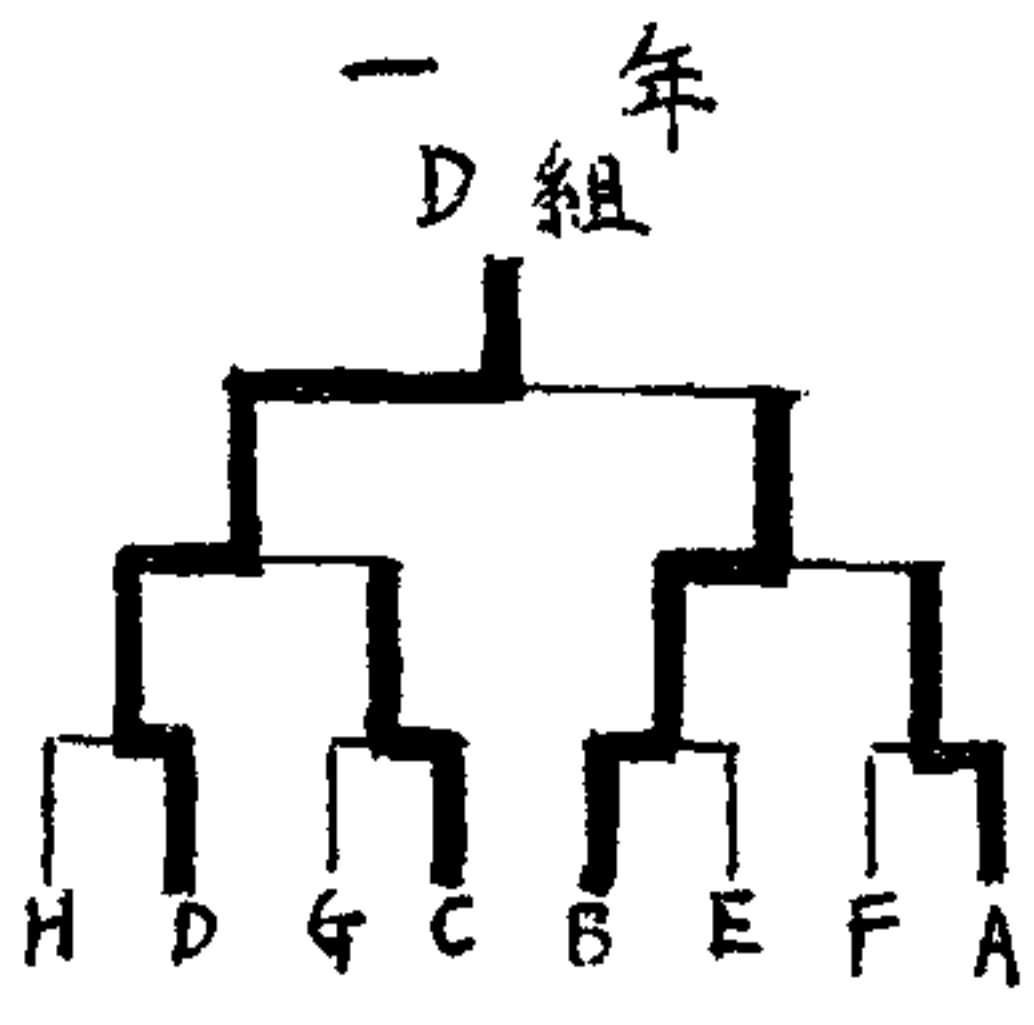
最近、頻りに成績評価の事が問われるが、われわれが小学校入学以来十数年間、無意識に受けつけてきた成績評価とは、一歩の第一条件であり、なおかつ、体面を意味するのだろうか。基本的に教育は、個人の持つ要素を最大限に発揮させる事と、幅広い人格を形成する事にその目的がある。よって、当然成績評価も同様に幅広い、可能性を最もまで追求する性質のものでなければならない。その点では、一部の教師のいうように評価は一枚の紙切れで決まらなければならない。これは「戸山に負けるな」という事だ。このように評価は、いかに全人的に評価する、生徒と教師の双方が賭けている教師や、名目だけが自由で実際にはコース別受験勉強の色彩の濃い三年選択授業一体何を考えているのだろうか。興味深い疑問である。

校長杯 反則が相継ぐ

もりあがらぬ内容

九月の水泳大会に続き、十一月十一・四日の四日間わたって校長杯、女子バスケの試合が放課後体育館で行なわれた。今日は、男子のバレーボールの試合が、クラブの試合及び旧体育館とこの二重なるためコートが使用できず、一月に延期された。そのため、全体的に盛り上がりは弱かったが、それでも準決勝、決勝と進むにつれ、応援にも熱が入っていった。技術面では、学年による差はあまり見られなかったが、ボールの奪い合い（ヘルドボール）が多く、フアウルは特に二年に多かったようだ。また、バスケット部員の活躍が目立っていた。

▽一年
決勝戦でD組がB組に十三対四と大差をつけて優勝した。応援は決勝戦をむかえ、大いに盛り上がり、前半戦で二対四と負けていたD組が、後半逆転し、B組に大差をつけた。また、準決勝のA組とB組との試合において某選手が、ボールを受け取るや敵方ゴールへ突進、シュートする場面が見られた。幸い？ゴールは外れた。





発行人
都立新宿高校新聞委員会
東京都渋谷区千駄ヶ谷
6/2/1
電話(341)0040
0859
編集 新聞委員会

自治権の確立へ

—新総務発足—

★ 今年度の前期総務は、四月三日に行なわれた選挙の結果により発
★ 足した。会長は加藤君、副会長は大野君、書記長は本田君
★ ……と、全員同じ連立候補が当選した。新総務は、生活に結びついた政
★ ……策を策定していくと意欲的な姿勢を示している。

前期の生徒会役員選挙は、四月三日・長野君(二〇)・本田君(二〇)が立候補し、三つどもえの争いとなった。
今回の選挙は、前会長の花井君(三三)、芥川君(二〇)・堀君(二〇)・小瀬村君(二二)・石井さん(二二)の連立候補、加藤君(二二)・大野君(二二)が立候補し、三つどもえの争いとなった。
その結果、会長は、最終的に花井君と加藤君のせり合いとなつたが、少差で加藤君、副会長と書記長は、対立連立候補の堀・小瀬村君が当選した。

論説

「天皇」ということばを考へることは、私たちがたいしてあつた。天皇を三階より見下ろしてはならぬ。天皇のお通りの微としての文字を脳裏にうかべる。戦後四分の一世紀を経た現在、私たちのまわりのものはもはや戦後を遠く過ぎたものであるかのように見える。だが私たちの前には、今再び考えなければならぬ一つの問題が提起されている。それは「天皇」であり、「天皇の戦争責任」である。

天皇と戦争責任

戦後二十五年もたつてこのような問題を持ちだす時代遅れではないかと思われるかもしれない。しかし、それに答へるかに、ここに一つの事件がある。
先月十五・十七日、天皇は全国植樹祭に赴くために広島

れるはずの原爆被害者ホームでは、被爆者たちに「正座・礼」の練習を強要し、朝鮮人被爆者スラム街には高い覆い堀が築かれ、当日広島市中は警官隊で埋まったのだ。天皇一人の来訪にこれほどまでの処置をとる必要があつたのだらうか。私たちがこのような状態を見ると、天皇を

ついでに国家から生活手当を出してもらっているときに、戦争孤児たちは、多くの被害者たちはどのような生活を送っていたのか。広島被爆者達はどうしていたのか。世間から差別され半ば強制的にスラム街を形成してきた在日朝鮮人被爆者。だが天皇来訪の際、彼らと天皇の間には冷た

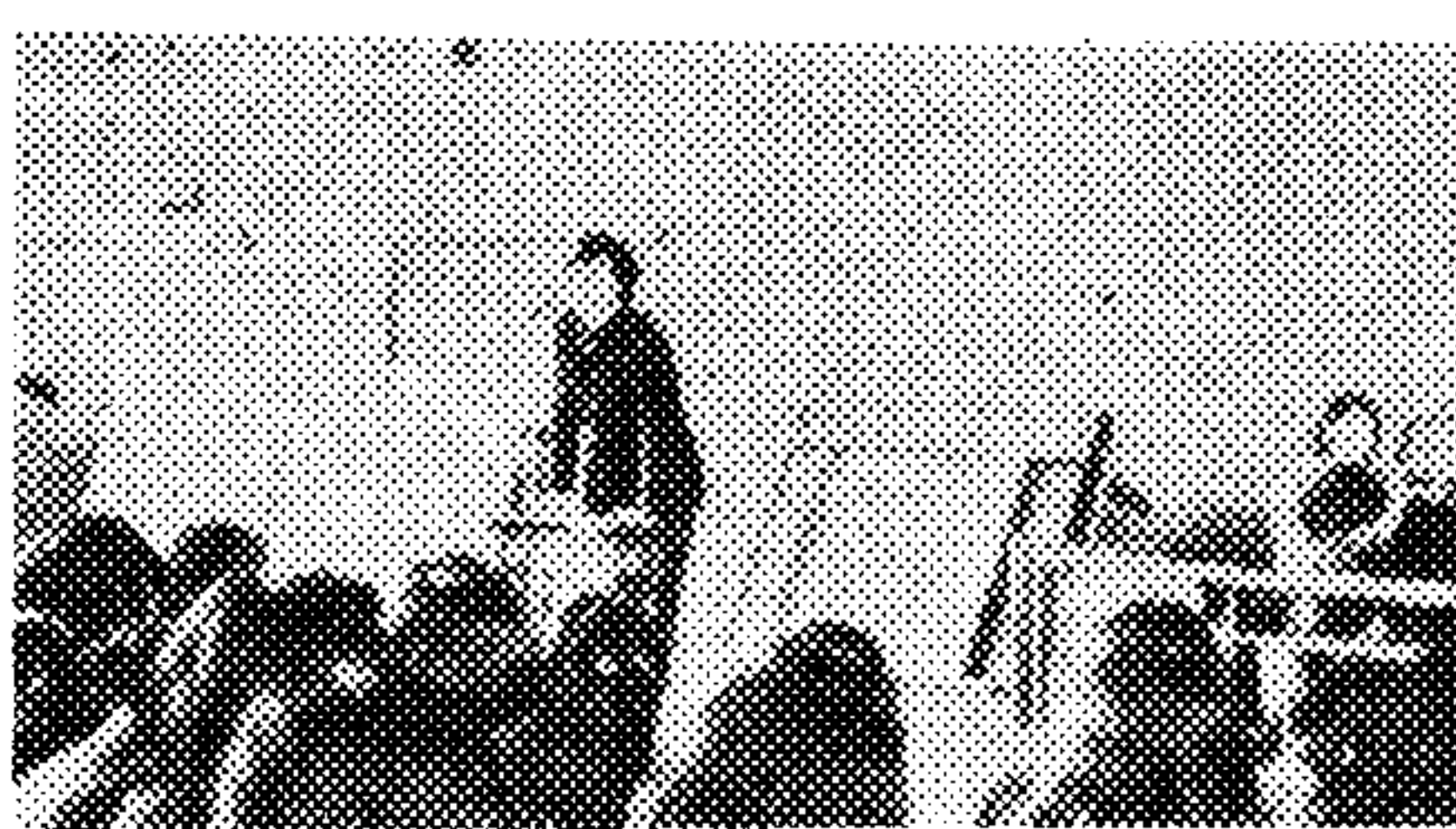
ある意味では天皇も戦争犠牲者の一人であつた。だが天皇は単なる戦争犠牲者としては片づけられない重要な問題を含んでいる。それは天皇は犠牲者である以前に民衆を戦争にかりたてていった張本人であるという事実である。天皇が戦後、皇居の奥にひ

五月一日、生徒代表会議が開かれ、戸山戦開催が承認された。総務は、すぐ戸山戦対策委員会を設け委員を募集したが、ま

戸山戦、趣を変える

H・R交換等

だ総務を除いて二人しか応募せず、会長が対策委員長を代行している。戸山高は、主に生徒の交流に力を入れた戸山戦を希望しているが、委員会もこれに同調の態度を示している。現在までに決定していることは、全員参加を目標にクラス交換、閉会式、フォークダンスやフォーク



書記長 本田 真也(二〇)
会計 堀川 広子(二〇)
副会長 大野 仁(二二)
副会長 長野 真一(二〇)

ソングを含めた後夜祭、各クラスの親善試合などである。今回最も委員会が力を入れているクラス交換は、新宿・戸山両校のH・R委員同志が、クラス内で決めたことを話し合い、自由な事を行なうというところである。クラスの参加は自由であるがなるべく多くのクラスの参加を委員会は望んでいる。他に戸山において総務主催自由討論会を行なう予定である。

予想外に進む

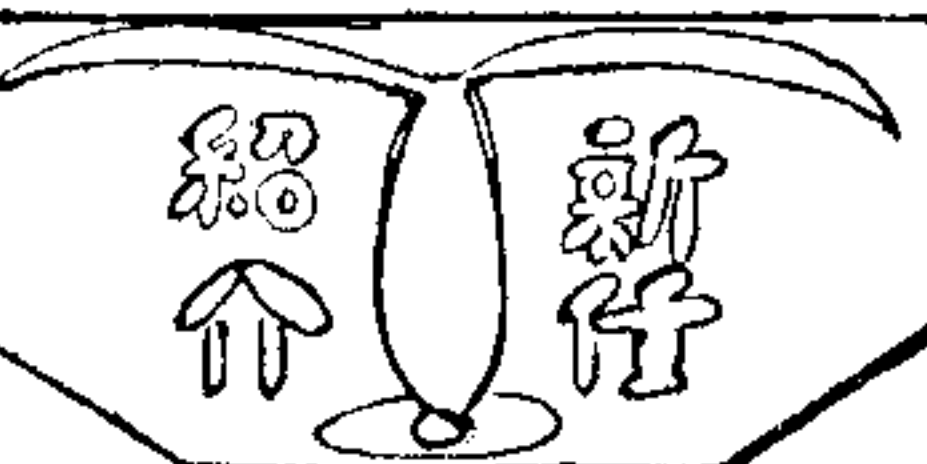
—道路計画—

今年四月下旬の校舎校地拡充整備促進委員会からの報告によると、計画されている道路計画が予想外に早く進展していることが判明した。

松崎審判ソ連へ

リガ国際大会

本校体育科の松崎先生が四月二十日から二十七日までの一週間市国際体育競技大会に審判員として参加するためにソ連に派遣された。大会の正式名称はリガ市国際体育競技大会といひ、開



今年度は教頭の鶴城先生と文先生(22歳)先生は、今年三月に早稲田大学教育学部国文学科を卒業後、本校に着任された新米先生で朝ははげめて早く登校されるのが特徴である。趣味は勉強と相撲観戦。好きなことは、ごはんを食べること、相撲の観戦になることが多かった。

教頭(漢文)鶴城紀元先生(53歳)前任校長は葛飾区亀有にある都立葛飾野高校で五年間勤務されていた。趣味は、園芸。新宿高校の印象は「大らかでびびり」としていいと思つた。でも、もう少し勉強してもいいと思つた。感想を述べたい。



受験とはなんだろう。ある者は、高校三年間の最終目標だと言ひある者は、教育の矛盾を作り出す差別にすぎないと言ひ切る。それでは、現在生徒はどのように授業にとりこんでいるだろう。一、二年生は「受験」という言葉の存在は知つていても、その実感は、わからないだろう。しかし、三年の肩書きがつくと受験という壁が、はつきりと、目の前に見えてくる。▼選択科目のあい間をぬつて、あるいは放課後、予備校へかよう者があふれる。また、公然と、受験に関係ない科目をさぼつて、予備校へかよつてくるものも多い。▼校外補習を友達にないし受ける。あるいは、先輩、教師に推薦された参考書を一人だけで買ひ、他の生徒にみせびらかしたりする者があふれる。▼友人関係は、受験のため友人を敵とみるがゆえにくずれはじめる。他の友達に出会えないようにとあせりはじめる。今、三年生の間では「めげがけ」という言葉がはやってゐる。勉強している友達に、この言葉を発するのである。▼ある者は、高校時代は、まだまだ基礎の段階だから、つめ込み学習もしたくないと言ひ。また、ある者は、単に、受験が存在するから勉強をやるのだと言ひ。▼他の者も、これらの説をきいて阻止することではできないであらう。しかし、以前の真の学習を求めていた我々は、どこへ行つてしまつたのだらうか。やはり、受験があるから、受験に勝たねばならぬからという理由で、どうしようもないものなのだろうか。真の学習と受験は両立しないものだろうか。それができないから苦悶しているんじゃないか、ですむことだろうか。高校三年間を受験勉強で終らせるのは、あまりにみじめな気がする。

内容の充実化へ

ては、なんらの位置をしめていないし、僕、今『朝陽』を作成している者にとつても、発行二週間ほど前まではなんら関係のないものである。

『朝陽時報』は、伝統を持ち今や第六十六号を数える。そして昔からの伝統は今でも伝えつつけられている。

いいかえれば、『非常』に古くさ

『朝陽時報』は、発行されると「ああ新宿高校にはこういう新聞があったんだな」と言われている。

また、『朝陽時報』は、「学校新聞」つまり新宿高校を代表する新聞なので、現在は実質的には緩和、ないといつてもよい教師による検閲制度が存在しているのです。検閲制度があるといふことは、わかれわかれ編集者にと

再起第一戰

朝陽時報が発行されてはや二十余年、部数にして一六五号になる。よいか、一六六号目の現在朝陽は一つの曲がり角に立とうとしているんだよ。そして、「生徒は朝陽を必要としているのか?」「なぜ朝陽を発行しなければいけないのか?」……この二つの、おそらくは永久に答えの出ない質問をかかえて朝陽時報はさらに発行部数を拡大していくところとしている。

える文章はその付属物にすぎない。十余年、家庭用新聞になじんできたわれわれには新聞＝報道の觀念が身体にしみついているようである。しかし「学校新聞」においてこの觀念は成り立つべきものだろうか。たしかに学校新聞においても報道の存在は重要である。しかし新聞の大半を報道で占める、という状態は好ましくない。なぜか? 高校新聞の最大目的は生徒の意見

交換にあるからである。

新聞の第一目的は？と質問すれば誰もが「ニュースを確実かつ迅速に伝えること」即ち「報道」と答えるであらう。たしかに毎日、朝日などの家庭配布用新聞の第一目的はそれであり、杜説、評論などは、主観を訴

朝陽時報は論説が少ない。私立のK大付属高やW学院の新聞は全面論説で埋まっているというのに朝陽は行数にして百数十行程度。この差の原因を「新聞部員の反骨」という形で述べ

つて大問題である。

それは、検閲という行為は、もっとも根本的にいつた場合「表現の自由」を犯すもので新聞の生命にかかわるものだからである。

最近では昨年の学園祭では検閲についてとりあげ、また先の第一六四号では「検閲廃止のアピール」を出した。それによると、「われわれは、検閲制度の

今回は、従来の朝陽時報の型を破り、今までの矛盾点を指摘し、新研部員がこの紙面を通じて特集を組み新宿高校の報道機関の最有力「朝陽時報」のあり方・今後の見通しなどを自由に論評した。

特集

朝陽とは何か

しかし、この新聞は過去の矛盾から脱却し、新朝陽時報の
門出にならなければ無意味になってしまう。

要するに生徒諸君がこの朝陽時報を見直し、生徒と一体
になった新聞づくりを押し進められるように努力してい
き、学校内の一つの問題を考える試金石にしたい。

てみよう。

朝陽時報にはいつの間にか一つの型ができた。一面は例の報道記事、二、三面は特集、四面は

スポーツ記事のようなもの、と。そして、誰もこの型を破ろうとはしなかった。つまり二十年もの間（といっても特に近

客觀主義を捨てる

現在新研では新しい新聞を模索している。毎回新聞を発行するたびに、新研部員は自分たちの出している新聞に対して疑問を持つ。その疑問とは、学校新聞とはいったいどうあるべきかということだ。

今までの朝陽を振り返ってみると、そこには、一般生徒既ニュースの詳報、それらの入ってくるあたりさわりのの論説、中性点、先聲発掘、発などの記事がある。しかしその中のどれに、学校新聞の特色があるのだろうか。

とか種々の報道配分はも

強い問題提起を

もし、実現されない時は、“われわれの行動”をとろうと思つ

ている。まったくその通りなのである」しかし、何か非常にしらじらしい気もする。一体、今まで何をしてきたのだろうか。何もしていないのである。ただ、与えられた行数のままに記事を書き、ただ新聞を出せばよいという編集態度は、いまだ編集者の中に残っている。朝陽時報は

ど何の關係もない、どうでもよいものだ、という考えが、今、自分自身に言えることは考えより何かを始めなければいけない、ということだけである。

朝陽時報の型を破り、
員がこの紙面を通じて特
有力「朝陽時報」のあと
計した。

提起を

記事に解説をもつと加えて、みんなに問題を提起して行くような形にするのが良いのではないだろうか。しかし、そのような形の報道を行なった時に障害になるのが、教師達と検閲である。今のところ検閲は記事の内容に干渉しては来ないが、朝陽の記事の一言一句が一部の教師には、非常に気がかりであるらしい。

前号の2面にみんなも気がついたと思うが「ぼく、悪酔いしちゃった」(三年の修学旅行の記事の見出し)というものを載せたところ、ある教師はそれを見るなり、ある新研部員のところへ、形相を変え飛んで来たと言う。しかし、決してその見出しは不適当でないし新研部員の総意で決定されたものでもあるのである。ぼくは、ここで一言ハッキリと言いたい。わが朝陽時報は学校の独占資本のもので発行させられているが、生徒を

対象として発行しているのだと。

次に評論についてだが、今までは「論説、発言中」などという形で載せられていたが、その内容がはわれわれの生活と結びついた諸問題をとりあげて来た。しかしそのまとまりを考慮しすぎず、抽象的な表現が多くなるため、生徒に対してアピールするものが弱かった。今度は具体的な表現(例をあげながら、述べべるなど)を使い、呼びかけをするものもせて行き、また内容的に不十分な点もあった。が、

対話のあ

朝陽時報、今まで二十年余り発行を続け、今回で百六十六回を数えた。今年度に入って大幅に検閲が減った。

わが新宿高校において朝陽時報はどのような意味をもち、どんな位置を占めるものだろうか。配られた時か、休みの時間にざっと目を通しゴミ箱へ入ってしまつてあらう新聞が、そのつま

対話のある新聞に

逆にその不十分な点をみんなが討議していったり、問題提起をしていけば、読者に対するアピール効果が上がリ、内容的にも充實していくはずだ。だからだと二枚二十円近くもする新聞の何分の一かをさいて、編者の朝陽に対する問題意識を書かせてもらったが、もう一度確認するが、学校の金を使ってまで出しているこの朝陽時報についてみんなの問題として考えてもらいたい。この文章がほかならぬ問題提起の試金石になることを編者は望んでやまない。

る新聞に

れる一瞬に読者の目を引きつけ、訴えている問題について考える糸口になるようになればいい。しかし、それだけでは何かもので捨てられたりスポーツ面だけ読まれるくらいなら、朝陽を発行する必要はない。それではなぜ読まれるための記事を書き

ているのか。それは、紙面に色をつけるというか、愚めきのためである。われわれ新研部員ももちろん甘ったるい態度で発行してはいないのだから、諸君からもつまらないといった目をそらす、一応記事を読み通し、自分なりに少しでも考えてほしい。

そして検閲という圧力が加わり不自由な記事しか書けなかったのが現状であった。一六五号までの新聞は学校新聞としては当然ともいうべき学校と生徒との架け橋であった。

しかし、これからの朝陽としては生徒会の一般ニュース、学校側の伝達機関から脱皮して、新聞として独自の情報を生徒に提供し、学校というものを見つめてもらうようにしていかなければならない。だから、なるべく校内での疑問点、関心事、特々ネを取り上げ、ある意味で生徒諸君を引っばっていく姿が望まれる。だから、ここでの検閲削減は非常に時を得たものである。

といつても型を破っただけで終わったのでは何の意味もなさない。君たち自身が協力してもらわねば。例えば意見でも文句でも新聞とやりあつてこそ学校新聞の両面通行のよさがある。

一方通行でない新聞であるためには、新聞が君たちよりある程度進んだ地点にいて、H・Rに、生徒会に、職員室に、どこにでも目をもつていなければならぬ。新研部員だけの目ではとうてい狭すぎる。生徒全員が新聞に参加していく、生徒の新聞が真の新聞といえよう。指導性もち問題提起のある新聞、生徒間に精通した、自分たちの青春の記録であるような充実した新聞こそ学校新聞のあり方であり、二十年の伝統の上にたった新しい朝陽時報である。

学校生活の底から湧き上つてくるエネルギーをもった、生徒会とも学校側にも感化されない牽引車の位置を確立していくことが学校新聞の使命である。

朝陽時報の現状

ある人が、朝陽時報はどこか発行しているのか、と稿者にたずねてきた。稿者としては、この質問に対し簡単明瞭な返答をすることができなかった。稿者自身はつきりしなかったのである。現在、朝陽時報は新聞研究部の手によって作られている。生徒会会則によると朝陽時報の一切の責任は、新聞研究部代表五名と生徒会総務の代表二名から成る新聞委員会がとることになっている。しかし、生徒会総務の代表は、全く朝陽時報には関係していない。つまり、朝陽時報は新聞研究部に独占されている。それではなぜ設置されているかという点「朝陽時報発行の義務づけ及びそのための予算確保」のためである。新聞発行には、莫大な費用がかかる。そこでクラブ費と新聞発行費を一緒にするとクラブの予算が多くなり、クラブ費ではまかないきれないからである。朝陽時報が発行してから、すでに二〇年以上たっている。その間形式的には全くかわつてなく、内容もマンネリ打破のため学外の事をのせたりしたが、同じようであつた。発行時期から、記事、特集が決まつてしまうようになった。特に学園祭、校長杯などは、必ず紙面にのる。このまま惰性的に発行を続けることをやめるため、新聞研究部内では朝陽時報発行停止の意見すらでている。「朝陽時報が学校内でどのくらい読まれているか」「記事内容についてどのようなものを望むか」「朝陽時報の発行維持を望むか」などを部内で討論している。学校内でどのくらい読まれているか「これは、その際の記事にも関係してくるが、相対的にいふとこれは、その際の記事に、朝陽時報の最も重要な点である論議 中性点は、余り人気がないようである。新聞研究部内では、読む人もいないのに発行するのは無駄であるからすぐに発行停止にしようという意見もある。部内では、次第に退路のムードが強くなり始めているのが現実である。内容的にはこれからかなり変わるであらう。しかしそれが今までの惰性的内容を超えられるかどうかは疑問である。今まで内容を新しくしたことが何度もあるが常に失敗に終わっている。生徒にさらに読まれる新聞を作るために今までの良識の内容を変えていこうという意見もある。あえて、軽薄な内容にもしこんでいく気である。以上のようなことが、部内で問題となつてゐる。

高宿新に立つ窮地

道路計画

校地削減全校に波紋を呼ぶ

今期の総務が「道路建設問題についての調査と反対」を公約にかけ、当選した事情もあって、道路建設問題が、現在大きくクローズアップされてきている。しかし、この問題は、昭和三十三年に計画が決定されたもので、本校として当時、その建設を認めていた。そして、以前より校舎校地拡充委員会がつくられ、道路問題に関しても、都に対して働きかけがおこなわれていたのである。それが、今になって、総務の手により大きくこの問題がとりあげられた。総務は、一般生徒に生徒会広報を通じて呼びかけ、公聴会を通じて、学校側の態度を明らかにしていく方針である。

今学期になっていかに沸騰してきた道路・校地問題について意外に早く計画が進められていたのは諸君も充分承知していることだろう。学校側もこの事態に際し、校舎校地拡充委員会並びに、OB・教師・PTAによる専門委員会を結成して道路問題に対処し、生徒会総務も計画について公聴会を開き、建設局へも足を運び、生徒会広報などで一般生徒に情報を知らせる等、学校全体の努力が続けられている。

放射五号と環状五号の敷設計画は昭和三十一年にすでに決定してきた道路・校地問題について、本校としても当時はそれらの道路を認めてはいなかったが、十五年間の内に状況も変わり交通事情・公害などの大きな社会問題にまで発展してきたことに、現校舎から三十分たらずの所に、三十五分道路が走るのを見逃すわけにはいかなかった。では、一応今まで学校が調査した範囲の道路計画をいっぺんに見直し、放射五号(新宿駅南口から旧校舎前を通り御苑に抜ける道路)を、環状五号(四谷二中の前まで延びている道路)こちらは、四谷二中をつつ切り、御苑と第二グラウンドの間を通りぬけるもので、さらに、その上を高架道路(高さ二十分)がめぐる予定である。そうしたところが、同計画の実

施が二、三年後に迫ったという情報も流れた。もし、この計画通り実行されれば、校地の四分の一が削られ、旧校舎もとり払われ、高架道路は校舎の三階と平行して走り、体育館から三層ほどの所に、この広い道路ができることになる。

ここで学校側では、委員会のみならず学校側で、都議会への陳情・請願さらには父兄の署名運動など反対運動がくりあげられていく。また、学校側としては環状五号を地下にもぐらせるとか、掘削のように三・四十分下を通すとかいろいろの案を考えている。

そして、道路が予定通りになった時に削減分として、第一グラウンドと第二グラウンドのしきりをなしている、三角形の旅館街を買収してほしいと都に陳情しているが、なかなか二十六億円もの大金をはたいて買収してくれども考えられず、いって道路計画の変更も、そこには御苑の自然保護問題、四谷二中の存在、さらに地下には地下鉄も通っているという種々の立地関係などから、非常に難しいところである。

こうしている内にも、御苑・四谷二中、我々と測量は度々行なわれ、くいの位置までペンキで印されている。

そこで新計画は、我々と同じ悩みをもつ新宿御苑、区立四谷二中へ、道路に対してどのように対処しているか尋ねてみたところ、御苑の管理事務所では、戦争直後に新宿高校との境に道路が通るの認めていたが、自然保護から緑の保存のために反対し、今更ですと押え通してきただけで、御苑は厚生省の管理下なので、どのようにするかは、厚生省と建設局、都建設局等との交渉の上で決まるので、

結局具体的なことは触れていなかった。ただ、緑(古木)の減少・土地削減を問題にしている程度だった。

四谷二中では、道路について大変楽観視しているが、学校側は区議会に陳情し残留の意を示し、最悪の場合、代替地を御苑の一角に求めるという態度であるが、同校は我々よりさらに苦しい立場に立たされていると言えよう。

まだ計画がどう展開していくかはわからない。しかし、全生徒諸君も学校側と総務だけにまかせるのではなく、自分から主体的に見つめ自分たちの問題として注意していかねばならないはずだ。

戸山戦に進展みられる

クラス交換も順調

今年の戸山戦は先月五日、十二日両日に行なわれ、各競技に熱戦を展開したが、結局新宿高校が硬式野球、軟式野球など二種目の結果を待たずして優勝、対戦成績を新宿の七勝四敗五分けとした。

《陸上》
陸上は、戸山高グラウンドで行なわれ、二〇対一〇〇とわが校の大勝に終わった。走り幅飛びではわが校の北出の出した7420をはじめて、走り高飛びにも松村の大会新が記録されるなど、極めて高いものとなった。

《柔道》
柔道は個人戦で10対3、勝ち抜き戦では九人もの選手を残して新宿高校が昨年に続いて圧倒的差をもって勝利を握った。

《バドミントン》
バドミントンは、『例年通り』の死闘を展開、最後は一セットを争う緊迫した試合となったが結局新宿が八対七と辛勝し、昨年について勝利を飾った。

《バスケットボール》
バスケットボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。

《剣道》
対人戦は6対6の引き分け、勝ち抜き戦では戸山が勝ち惜敗した。(女子は3対0で新宿)

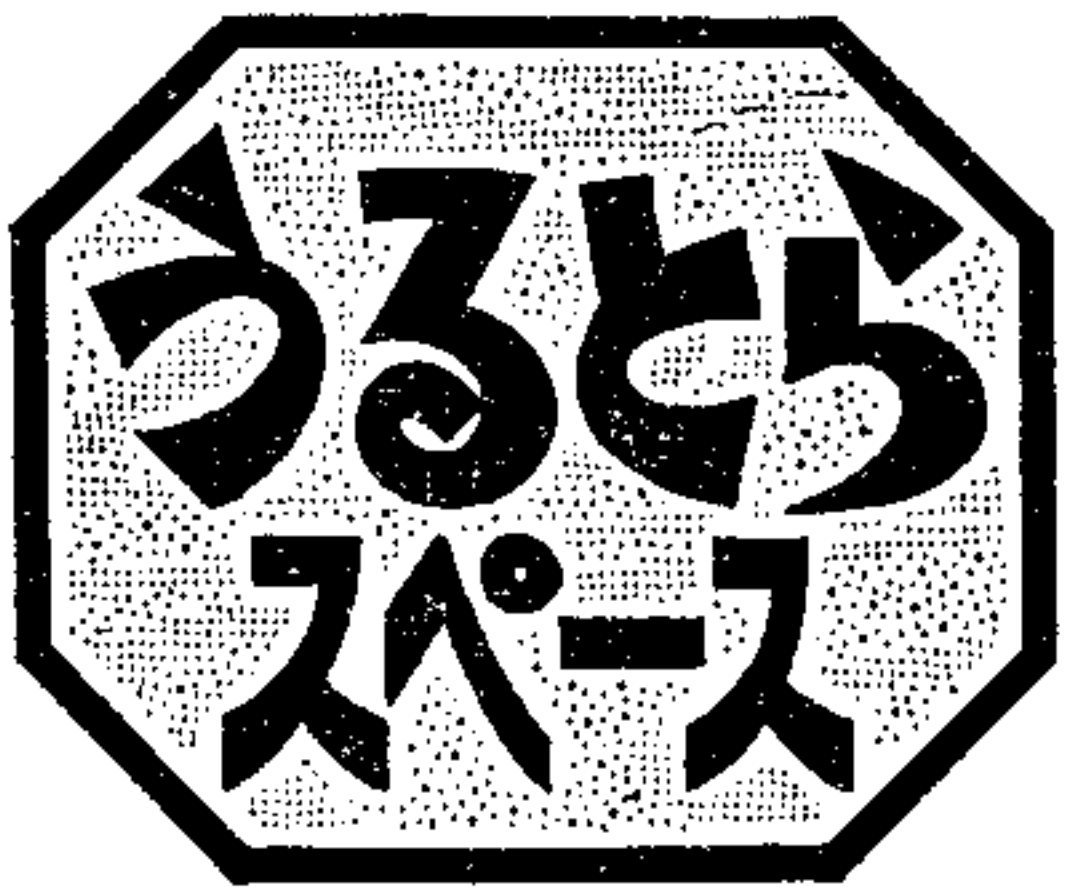
《ラグビー、サッカー》
ラグビーは練習量、グラウンドに恵まれた戸山が終始新宿を圧倒。結局13対0で大勝した。

《硬式野球》
一九日、東大グラウンドで行なわれた硬式野球は3対2と新宿が勝利した。

《バレーボール》
バレーボールは、男子は40対79と惨敗したが、女子は大接戦の末、41対40と勝ち、引き分けに持ちこんだ。

《卓球》
卓球は男子(シングル9対1、ダブルス4対1)、女子(シングル5対2、ダブルス2対1)とも戸山に圧勝し優勝を決めた。

《体操》
出場選手が少ないにもかかわらず138対129と新宿高校が圧勝。



うるとスペース

一、答申の背景

中教審は昭和二十八年、六・三制解体などを目標として発足した。その後中教審が行なった答申は、教員の政治活動を禁止する教育の「中立性維持」の答申、大学の管理・運営に関する反動的答申など民主教育をくすぶる内容のものであった。

このように中教審は第三者機関と偽って、自民党の反動教育政策合理化を役目としてきた背景には、自民党が、今教育を通じて国家・愛国心を資本家が要請していること

が、解り、答申が高校・大学での多様化を促進し、幼児期からの選別をねらっている理由もここにある。

中教審答申の内容はこうだ。資本の要請のためのものとなり、それは、平和と真理を求める真の教育に逆行した軍国主義復活の一要素を占めるものとなっているのである。

二、失なわれる機会均等

現在の義務教育は六才から始めて六・三・三制になっていくが、「改革」では、これとは別に四才から七才までの四・四・六あるいは四・五

三、重くなる父母負担

大学では国立の授業料を一万二千元から五万円へ、私立では平均七・八万円を十万円へそれぞれ値上げし、「公私の格差」縮小というのだから実

四、大学の国家管理強化

現在、各地の大学では改革が進められているが、中教審は自主的・民主的な大学改革には、いさい禁止の姿勢をとる。答申では、大学改革についての国の基本計画に合意した大学に対し、優先的に財政援助をするという。

また大学管理の立法化、大学の理事会に設置する選出の理事を置くことなど管理統制の手段を述べて、大学の学問の自由はこうした管理強化によって危機にさらされている。

五、教員に試験

教員は「校長、教頭、上級教

六、試験の厳格化

大学改革のための常任委員会の設置、大学の理事会に設置する選出の理事を置くことなど管理統制の手段を述べて、大学の学問の自由はこうした管理強化によって危機にさらされている。

七、試験の厳格化

大学改革のための常任委員会の設置、大学の理事会に設置する選出の理事を置くことなど管理統制の手段を述べて、大学の学問の自由はこうした管理強化によって危機にさらされている。

危険な教育改革

幼児期からコース別

大学改革のための常任委員会の設置、大学の理事会に設置する選出の理事を置くことなど管理統制の手段を述べて、大学の学問の自由はこうした管理強化によって危機にさらされている。

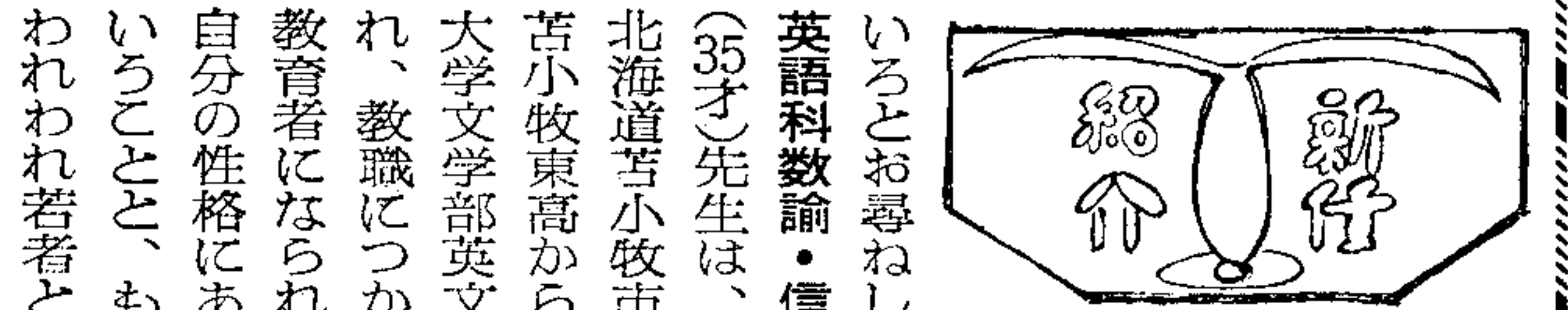
また大学管理の立法化、大学の理事会に設置する選出の理事を置くことなど管理統制の手段を述べて、大学の学問の自由はこうした管理強化によって危機にさらされている。

また大学管理の立法化、大学の理事会に設置する選出の理事を置くことなど管理統制の手段を述べて、大学の学問の自由はこうした管理強化によって危機にさらされている。

また大学管理の立法化、大学の理事会に設置する選出の理事を置くことなど管理統制の手段を述べて、大学の学問の自由はこうした管理強化によって危機にさらされている。

また大学管理の立法化、大学の理事会に設置する選出の理事を置くことなど管理統制の手段を述べて、大学の学問の自由はこうした管理強化によって危機にさらされている。

また大学管理の立法化、大学の理事会に設置する選出の理事を置くことなど管理統制の手段を述べて、大学の学問の自由はこうした管理強化によって危機にさらされている。



この欄は、前号に引続いて今年度着任された信田先生にいろいろお尋ねした。

英語科教師・信田勇先生(35才)先生は、昭和十一年北海道苫小牧市に生まれ、苫小牧東高から東京教育大学文学部英文学科に進まれ、教職につかれた。教育者になられた理由は、自分の性格にあっているというところ、もう一つは、われわれ若者と接して生活

ゲームなどをする所が多かった。しかし、なかなかに戸山側との合同クラス討論を行ない、真剣な意見が聞かれた。クラス交換を行った生徒に感想を聞いてみると「これからもう少しいろいろな意見が多かった。当日は、夕方になって雨が降りやまず、結局、後夜祭は中止となり、それを惜しむ声が多かった。体育館、ピロティでフオーキングだけでもやりたいという意見もあったが、定時制の試験などによって中止された。そのためか五時になってからはなかなか帰らず、定時制の人たちにはかなり迷惑がかったようだ。

《総務主催討論会》
五日、戸山に催された両校総務主催の討論会は、新宿での前宣伝の手落ちから新宿側からの出席者が非常に少なかった。討論の内容は主に現在の教育体制についてであったが、戸山の総務の用意が不十分なためか、議論があまりあわず、最後までだらだらと討論が行なわれた。

松崎先生、豪へコーチに

六月十二日、体育科の松崎先生が豪州に向って出発された。先生は、春休みにリガ国際体操大会の審判としてソビエトに招かれた。今度のオーストラリア派遣とこのところ海外での忙しい生活が続いている。

今回の訪豪の目的は、オーストラリア・ナショナルチーム(体操)の技術コーチ及び審判員指導の二つである。

今回、代表に選ばれたのは幾多の難し選考の結果であった。この難し選考の結果、松崎先生自身だけでなく、新宿高校にとっても光栄なことである。

多彩な展示、劇の減少化

展示、抽象化へ

二年生

A組—展示「公書を考える」
現代社会で最も重大な問題とされている「公書」をテーマに取り上げたのは非常に興味深い。

B組—展示「音」
自然の音である音、人工的に作られた音人間にとって悪影響となる音、及び正反對の要素をもつ音楽の三つをテーマとしていく。

C組—展示「高校生」
クラス内で賛否両論に分れた映画制作だが、結局「高校生」をドキュメンタリータッチに描く意欲作。クラスを撮影・録音・アンケート調査の三連発に打ち出し、高校生を取り巻く環境やその環境への反応などにスポットをあてている。父兄、諸先生方も高校生の実態を知るのに一見の価値はある。

D組—展示「素朴への思考」
具体的な準備にはまだ取りかかっていないようだが、内容の抽象さからみて当然の事かもしれない。完成が待たれる。

E組—展示「お化け屋敷」
計画、内容ともに完成。各仕事及び役柄分担の為のグループの編成まで準備は進行している。内容については当日まで秘密。

F組—展示「男と女」
内容は決定したが、具体化への案が練られていない。

G組—展示「象の死」
準備は完全に終了、残るは舞台を使っての練習のみの状況。

H組—展示「夢」
夢こそ、無意識のうちに自己を表現する唯一のものである。これを哲学的見地から深く取りかかっている。

I組—展示「たんぼの詩」
内容・構成・計画等の準備完了。脚本までも仕上がっており、練習に取りかかっている。

…夏休み前での積極的活動は少なく…
…1学期を終えたのが多かったが、…
…しかし1学期に入ると活発に残っ…
…ているクラブが多く見られた。今…
…年の学園祭は短期間集中と従来の…
…長期間の差があらわれよう。

現代の風潮を反映

新聞研究部—展示

マスコミは世間の情報にかたよりがちである。それに対して生活に密着した、原稿の明瞭な少数字の主張がミニコミである。我々は、グループに分けて三〇くらいのミニコミグループを訪問準備している。

天文部—展示
グループに分かれてそれぞれ火星の写真を撮り、その自撮の模様をフィルムに収める。木星の衛星の動きを模式的に表わす、などの試みをする。その他一年生がプラネタリウムの説明をする予定である。共に興味深く、特に一年生の活躍が期待される。

音楽部—演奏
「チーフオブバグダッド」「グリーン・スリッパ」「ラコッチー行進曲」「ファウスト」の四曲を企図としてはハムをやったりオ

上で大きな効果をもつと考へられ、その内容も安心できるものである。

今年も軽音楽同好会では、昨年に続き、演奏会の公演が予定されている。

部員同志の対局のほか、久保田、豊原両先生との対局が行なわれる。また、早稲田及び都立立川いすれかの親善試合が予定されている。

落語研究—公演
「学生生活から学生らしい落語」をモットーに、今年も得意の落語を特別室において披露する。乞望期待とは部長の弁。

数学研究部—展示
「数研バズル」と題して、数学の授業にとらわれない新しい数学を例年通り見せてくれる予定である。

文芸同好会—劇
去年とは一変し、今年も劇題は「旅」。「一般的なのは演劇研究部のこと。劇でない劇をした」と、意欲充分。

山岳部—展示
展示場を山小屋風にし、そこへ山の写真や登山用具を展示する予定。その他には部誌も出さる予定。かなり意欲に燃えているようである。

化学部—展示
昨年と同様に各種の実験などを見てもう予定で内容は大気検査、各種電池の作成、時計反応、人工香料の作成などである。大気検査などは場所から興味のある実験である。

物理部—展示
企図としてはハムをやったりオ

美術部—展示
美術部員の一年間の成果が、見られそうである。

映画研究部—展示
近年の映画を紹介、研究する。

生物部—展示
現代の公害などから絶滅に直面している動物を取り上げていく。これらの生息から公害の恐ろしさ、人類の危機を示している。

社会科学研究部—展示
今年の展示には「ゲリラ活動」を予定しているが、個人個人で準備のため進行状況はよくわ

からない。部誌を発行する予定であるが、これには部員以外の人の執筆も多く期待できそうである。

演劇研究部—劇
菊地寛の徹底的研究として昨年に続き、本上演する。

「相似」「屋上の狂人」は多少難解であるかもしれないが、一回以上上演しないので必ず見ることを願っている。

地理歴史研究部—展示
農業、神津島について。ユースホステル班は、パネルと写真でユースホステルの紹介をする。

鉄道研究部—展示
通勤線と旧型の国電の形式などを調べる。さらに現在の状態から今後のあり方を検討している。

茶道部—演奏
華道の方は教室に花を展示する予定で、茶道は、二十六日、三十七日の午後一時から三時までの間、朝陽会館でお茶会を開く事になっている。一人五十円で菓子なども出すとか。

写真部—展示
例年と同様に写真の展示会で、今回のテーマは「新宿を撮る」である。我々は新宿という町で一日の大半を過ごすわけである

が、ここで改めて新宿という町を見直し、考えている。部員一同はきつて部会にも活気があ

る。

個人参加
ピアノ独奏—「G打撃」
音楽室にてこれまでの成果を披露する。

道路建設問題絶対反対にとりくむ
—道路問題特別案—
現在新宿が直面している重大問題である。この問題を取り上げていくのはこれだけのものが、残念であるが、委員は全員やる気があり、都の建設労働委員会にも傍聴に行った。

最も期待できる展示になるであろう。

喫茶店—家庭科クラブ
喫茶店—三年山根君ら
昨年に続いて行なわれる。

一年D組—展示
この機会にクラスの統一を行なおうというのが主な目的。その方法については、クラスを五

六人のグループに分けて各グループごとに違った観点から調査をさせ、最後にそれらを一つにまとめるというもので、新宿高校の歴史から始まり、現在までに起った主な事件を取り上げ

第24回 学園祭開幕

10	11	12	1	2	3	4	5(時)
1年・E	放送研究(クラブ)	2年・G	1年・A	ESS(クラブ)	文部	3年・B	演劇部
30分	60分	35分	40分	45分	45分	100~110分	55分

25日(土)	26日(日)	27日(月)
開会式(8:30) 校庭 出席調査 4時終了	出席調査(9:00) 校庭 又はビロイ 4時終了	開始(9:00)(学校・厚生年金ホールとも) 学校4時終了、5時20分までに掃除完了 5:40~6:00 H.R 6:00~7:30 後夜祭(雨天とりやめ)

6:00	6:30	7:10	7:30
1.フォイヤーを笑く 2.みんなを集める 3.炎を囲んで輪を作る	フォークダンス	1.フォークソング 2.ロック (ロックについては未だ検討中) (引き延ばす事可能)	

学園祭と学園生活

わが校の学園祭は、今年も怠慢と虚偽と逃避と低俗と疲弊と労苦と分裂と情性と不活発と幻想の中で行なわれようとしている。

こんな声が聞かれたが、この批判の原因はどこにあるのだろうか。

それは生徒自身が学園祭をほんのり認識していない点にある。といてはみたが、学園祭を認識するとはどういうことなへらうか。

筆者は学園祭を次のように認識した時に上記のような批判

は生まれて来ないと思う。

「われわれは学校において、また社会の中で成長しながら、発展しながら生きて来ただけから自身の成長には多くの知識の吸収、経験の増加、思考の蓄積によって、個人個人形は違っても、何らかの主張、意見、創造への要求などが生まれたはずなのである。それらの発表の場として、また他の作品を鑑賞する場として活用するために、学園祭は開かれるのだ」と。

そうすれば、積極的な創作意欲が、怠慢と虚偽と逃避と低俗と疲弊と分裂と情性と不活

発と幻想とを打ち破り、真実と状況と個性と個性と活発と有意味との中で行なわれることになるのである。

しかし、大きな問題が一つある。それは、従来の学園生活のままで、こんな認識を持つことが不可能だということにある。

それを解決して行く方法は、各人各様の状況によって、違いうたろうが、学園祭を生活の一要素としてとらえることが共通に必要な条件ではないのだろうか。

学園祭のこぼれ話

「新宿とは？」この展示を行なうことが決定されたのは、七月上旬、学園祭クラス委員が出された翌日のことであった。前日一日の間にクラス委員会で決まった原案が、H.Rであったり決定したのである。もっとも委員の中には「だいたいようぶかなあ、こんなにあつさり決まっちゃって」と言うものもいたが、その後もだいたい順調だった。調査事項、調査の手段……と徐々に決定されていった。「このふんばらだいたいようぶだ」

が、ここで改めて新宿という町を見直し、考えている。部員一同はきつて部会にも活気があ

る。

個人参加
ピアノ独奏—「G打撃」
音楽室にてこれまでの成果を披露する。

道路建設問題絶対反対にとりくむ
—道路問題特別案—
現在新宿が直面している重大問題である。この問題を取り上げていくのはこれだけのものが、残念であるが、委員は全員やる気があり、都の建設労働委員会にも傍聴に行った。

最も期待できる展示になるであろう。

喫茶店—家庭科クラブ
喫茶店—三年山根君ら
昨年に続いて行なわれる。

一年D組—展示
この機会にクラスの統一を行なおうというのが主な目的。その方法については、クラスを五

六人のグループに分けて各グループごとに違った観点から調査をさせ、最後にそれらを一つにまとめるというもので、新宿高校の歴史から始まり、現在までに起った主な事件を取り上げ

たり現代の高校生の悩みごと、また新宿高校生の方ええ等、多くのエピソードを題材に取材、インタビューをした。各グループの個性を基礎とする全体の統一が見ものである。

招待試合

男子 広尾戦	女子 玉川戦
男子 小石川、都立大付戦	女子 広尾、成徳戦
男子 二六日 九時、一時	女子 二六日 九時、一時
バスケット部	バレー部
男子 深沢、明正戦	女子 深沢、明正戦
男子 二六日 十一時、一時、三時	女子 二六日 十一時、一時、三時
卓球部	硬式野球部
男子 二五、二六日 二時	男子 二五、二六日 二時
男子 開成戦	男子 開成戦
二五、二六日 校庭	二五、二六日 校庭
体操部	演習発表会
二五、二六日 九時	二五、二六日 九時
二六日 三時	二六日 三時

生徒会波乱のきざし

十一月六日、後援生徒会新総務が、ようやくその顔ぶれをそろえた。各役員は左記にあげるとおりである。

自覚させ、授業の反動化への抵抗のために、充実した学生生活を送るために、現任の授業制度の改革を行なうと述べ、具体例に、総務だけが動く	だろ」と述べている また、副会長は、生 一般生徒との接点を
---	-------------------------------------

会長	三木 悟(二F)	として、教師による講演、生徒
副会長	本田 真由(二D)	のための討論の場などを設ける
	大原 耕人(二D)	ことを打ち出している。また、
書記長	吉村 仁(二F)	経路に関しては、役員ひとりひ
会長は、	これからの方針とし	とりの意見を重んじたいので、
て、選挙での公約通り、学問へ		そのために全体のまとまりを欠
の疑問を、生徒ひとりひとりに		いてもそれはしかたのないこと

く、両者が互いに意
つていかねばと考え
もに実際の行動を抑
いう意見を持ってい
具体的な行動として
委の組織化、ベルマ
立、生徒への防波堤

ところで、今回の選挙は、生徒会としてきま問題を受けつて。

九月三十日、一回目の投票が行なわれ、その結果、副会長二名が当選した。そこで選管（選挙管理委員会）は、選挙規定第十八条に記された「会員総数の四分の一以上の有効票によつて当選とする」という規定を、同じく選挙規定第八条の後半部分、「選管は選挙権及び被選挙権は

しかし、生徒会々則第三条には、『全日制課程に在籍する生徒をもつて会員とする』と記されていることから、運営は会員の中に含まれるはずだという意見が高まり、生徒大会招集ののち、十月二十七日の投票によって、運営は会員の中に含ま

危険な生徒の無関心

都の主旨探恢復、道路問題に進展はみられない。学内では生徒会の道路委・P・T・A・学校側の三者が独自に反対運動を繰り広げている。そして反対運動の効果が表われたか、四十七年働工はほぼ考えられなくなった。しかし、一般生徒の無関心が非常に心配される。

に都議会でも新宿高の道路請
主旨採択されて二ヵ月にな
て、あまり表だつた進捗はみ
ていない。そこで学校側
都民室に陳情し事態の収拾
けようとしている（望み薄
）。そして同室では、十一
日に、新宿高の道路に關す
員会を設置した。都市防災
再開発部へも足を運び、新
苑からわが校までの一連の
検討を依頼した。
PTAも学校側とは別に独自に
都庁に請願に行き、副知事・教
育庁（環境庁）に道路全面反対
の意向を訴えた。環境庁でも御
苑の自然を守るという観点から
道路阻止への構えを見せてい
る。
さらにPTAは、全校の父兄が
第2学区内の4区（世田谷・澁
谷・目黒・新宿）の各々に分か
善工はありえないと見ていて
そして、先月調査した道路整
アンケートで、概略を見たと、
今後の行動の方針希望
「道路計画全面撤回」、
動による陳情などを生徒を
望し、さらに付近の住民む
制・OBなどと共闘で反対
をくり広げたいというのが
的な意向である。（なお、い
ケートの詳しい報告は道路

た、その選挙規定を単独
えてみても、そのあいまい
ぬぐいきれない。結局、今
票によつて事態はおさまつ
となつた。発足が一カ月経
れた新総務に、善き返しと
に、この不手際を解消して
ことを期待したい。

徒の無関心

警工はありえないと見ていて、先月調査した道路アンケートで、概略を見たと、今後の行動の方針指定、道路計画全面撤回、騒音、さらに付近の住民むねをくり広げたいというのが、的意図である。(なおい、ケートの詳しい報告は道路

国体ヨットハーバー建設

高校の夏季施設である塩見
十葉県で国民体育大会を開
るための恒久ヨット施設が
れるという計画があった。
は、本校生に余り知られて
いたが作られる危険が迫
る。これは、本校生に余り知られて
いた。これは、本校生に余り知られて
いた。

二十日に塩見の地元の方
も、臨時の施設も作らない
という連絡が電話であつた。
これは、建設計画の該当地区に
たつていた二つの部落が、千
葉県と漁業権及び補償の間
とではその後職員会議で施設
には反対であるという決定
とともに、校長・事務長
と千葉県庁の国体局及び、館
の国体課の方へ陳情に行
つたためといふことである。

中性点

最近、高校では
三無主義（退席
が代名詞とな
っている。▼二学期
後半になってき
も教師と生徒との
隔りは、いつか

孤立化を陳めているようだ。そして生徒も各々がバラバラになっ
ていく。しかし、このところ職員室では教師と生徒の面
接が連日行なわれてはいるが、ほとん
どはとどろきや不安の情けな
い結びつきを持つだけの情けない
状態である。▼教師年令の高
齢化が校の中で若い教師らは、教
育を通して高校生活の結め込
みで欠けている人間として

生徒を束縛（出席、受験利用詰め、勉勵）しないようにすること（自由勉勵）を旨とする。▼評価の意識にしても個々の教師によりバラバラで決している。中止しい評価は見られない。中野チテストにおいて去年○社の実施した模擬テストと同じ問題が校題された。その意図はわが校全国におけるレベルを調べるもののである。持考がなく

った生徒の学力を測るためには、そうするしかないのである。▼そうして、自殺者が出る。学校側は「なぜ、先生や友に相談してくれなかったのか」を嘆く。自殺に追い込む原因

後期生徒会選挙は、とうとう放送大会という異例措置にまで発展し生徒の無関心(体育館におけるダベリ、トラップ)を防止しようとした運営の配慮をみるに生徒が今度の選挙まで

至った。

会役員を支持しな

いはつきりした根拠

いたのだからか。

前期生徒役員の中から再選

されたのは、本田君ひとりで

多

半は立候補者が多

学に対する関心が

徒会に

そして、投票 内のまとまりを作るには相当
の上にも実感 な時間を要するだろう。そし

りみ、トランプに眞
対する姿勢に
変化が生じてきた。
人々が変わることに
驚かされて、

十分さも加わり熱心
るようなことはな
の影響は得票数の上
に表れた。

会長再選の立会演説
い。委員と総務の政策であっ
泡と化すことになりかねな
点では、今までの努力が水の
されるようならばはばい
である。しかし、

かせきりで、パイプ役をな
ているのは、委員と総務を兼
ねる本田君だけである。この
点では、今までの努力が水の
泡と化すことになりかねな
い。委員と総務の政策であっ
たにすぎないので
うか。道路などの
六人の候補者が

人が変わることにより興味を失ふところだ。マラエラと無
問題に密着して、積極的活動に移るのは、
た方の候補を選んだ。新首相 来年からとなりそうである。
交り中、まことに親王の面交り
自台屋より根本的問題はさ

思想に選挙用紙に名前を書いたにすぎないのではないだろうか。道路などの活動が中断されるようならば残念なことである。しかし、会長再選の際六人の候補者が立つたことに即した事を考えるだけでいい。しかし、このようなその場大きなものになるだろう。

と、英語の通

ての帰国である。で苦勞していたようだった。そだが、相手の英語が、マライに、食事の面でも、日本とはまじりのものだったので、よ

「最も強く感じたことは……
「訪問した国々が、東南アジア
であるだけに、新興独立国とい
うなり閉口していた」
―英語の教師としての感想は
「やはり、英語の会話力に日本
なれ、先生の授業は先月中旬
から平常通りで行なわれている
に違いない」

を貫き通し教育に情熱をもち、
 といつていただきたい。特に強
 強への疑惑等「原点」をもう
 度見つめ直す姿勢が必要であ

紛争以来未解決だった評価問題の再検討がなされている。ところが学校側のその研究は非常に危険なものになりつつある。評価委員会の消滅、一斉テストの生徒を無視しての実施によるボイコット参加生徒の続出など、我校の内にかなり強硬な教育体制がしかれそうな危険性もある。この時点において評価教育の問題の総括をし、我々自身の問題として対処せねばなるまい。

学校にとつて、一斉テストとは、現存の学力及び将来の大学入試に備えてとの父母の要望によるものである。

しかし、これが実施の決定ま

でなかつたが、問題はさらに評価とは何かに至つた。

一斉テスト中止を叫んでヒロティーに集合した生徒は三〇人位で全て異なつた意見をもつて

あるクラス討論の中で、「世の中がこうなっているんだから（受験があるのだから）やっぱりそれに流されようよ。受験してエリートになろうよ」「どうせ学校で持考をやらなくなつては安心できる母上、父上が守つてくれるようにみえても、その後ろに

あるんだもん」

彼らは一見大変まじめな損得勘定をわきまえたお方に見える。でもそれは別の立場から言える。主主体性などというものはみじんもないというよう。「流されう。弱くて小さい赤ん坊なんだよ。もし、このお話に反発する人なら決して前のようなことをクラスで言う人でないと確信する。センセイサマも「かわいいう子には旅をさせよ」のように生

無関心、無責任の三無主義が空
氣のように常に存在している。
無気力は、一斉テストを考え
る。また、反対行動を起こすな
らば、無責任は、全ての責任をあ
げようか。

教育―学校教育については、ちよつと見たただけでも問題には難しい問題であり、また当然社会との関連もでてくるわけである。我校では、六九年紛争以来、評価は抽象的であり、個人の能力を正しく表わすためにもっと

ら七〇年にかけて全国にひろがった高校、大学紛争により、大学、高校・教育といったものが、我々の存在そのものが問われた。そこで問われた問題は、かたづけたいわけではなく、また解決の方向へと向っているわけでもない。

後、評価委員会ができて評価についていろいろな検討がおこなわれてきたが、これは教師側だけの話だった。しかしこの問題は生徒自身の問題である。ある意味でいえば、生徒自身がかかわっていかねばどうしようもない問題ともいえる。

具体的な形での評価を、とか五段階を十段階にしよう、などが出されている。それはそれなりに意味があるだろう。しかし、根本的な問題は、ふりわけること、ランキングづけることなどがどういう意味をもつか、許されることなのか、という点にある。

に反対

教育―評価問題は確かに非常

現行評価制度は五段階階級評価制度とは何かという問いに対して、重要な意味をもつ解答は、「現行評価制度は、我々を社会において位置づける道具として存在する」である。いかに評価する方が良心的に差別するためにつけるのではないといったところで、生徒を五・四・三・二・一にふり分けているのであり、つけた評価は社会においてその生徒の価値を決定してしまうのである。現行評価制度を変更し（僕達を無事に社会におくくり出すことや、大学へすすめること）が教育的配慮かもしれない。しかし、教育というのは、社会が要求する人間をつくり出すのが目的だろうか）であろうか。

青春に戦争の暗い影

先輩発

った）よく覚えてないが、
『勉強しろ／勉強しろ／』と
よく言われたのが記憶に残
ている」

—そここの生徒のようす—

今回は、特殊法人となつて
いる金融関係の会社にお勤め
のかたわら、三鷹市で牧場を
開いておられる佐藤菊雄先輩
にお会いしました。国会の予
算の關係でお仕事のたいへん
お忙しいところを取材に協力
してくださいました。

は。

「まじめでした。思想的統
が あつたし、また、それを疑

青春に

「戦時中で、四年生のときに海軍兵学校に進学したので、当時は軍関係の進学が多か
—先生のようすは、
者もいませんでしたから。
にかく一生けんめいでした。」

先目のいわゆる「二斉テスト」について、われわれも個人としては、いろいろな意見をもつけれども、職員会議の決定にしたがつて考えを述べるより他に方法はない。臨時生徒大会でもたびたび述べたように、教科委員会から提案して職員会議で決定されたことは、次の通りである。

むしろ、これから問題になるのはその材料を具体的にどう扱うかということである。いくらなんでも点数を合計し、度次を定めるなどといったことを考えている先生はいないはずである。どこまでも生徒の特徴を知

解見会

のか分つたと思う。基礎学力がどの程度身についているか、学年に応じて考えられる最低の到達度に対して、どのくらいの水準であるかといった観点からの診断テストの性格が強いものである。したがって、生徒諸君がこの資料に基づいて今後の学習計画をたてる面でも、職員側にとっても、学習指導計画の面でも

教科委員会見解

「進路指導の面で必要がある
と思われるので各学科担当にそ
う方法はいくらでもある。だが、い
ゆる評価とは関係なく、個々の
生徒の学力を判断できる資料を
各料で用意していただきたい」
これだけの材料で進路指導が完
全にできるなど誰も考えてはい
ない。「Something is better
than nothing」。何かしら
の材料があるのは無いよりまし
である。こういう方法を通して
でも、生徒諸君の特徴をある程
度客観的につかみたいという願
いがあるのである。だから各学
科についてなのである。

これを受験科目だけに限定し
てもよいはずであるが、われわ
れの場合、体育・美術・音楽・
家庭みんな含めて考えるのは当
然である。

「進路指導の面では必要がある
材料に止めて
いたきたい。」

「各学科担当
にゆだねる」と
いうことから、
その一つとして
英・数・国でた
またまテストが
行なわれたために、「一斉テス
ト」であるとして反対を受けた
が、それは偶然に入試採点中に
時間があぐのを利用したまでの
ことであって、各学科で共同謀
議を行なったのではない。また
いわゆる「一斉テスト」の行な
われなかった一年生について、
また二年生の英・数・国以外の
学級について資料を出していた
だけなのではない。

今回のテストを受けた二年生
諸君は、それがどんな性格のも
ちにも大いに活用して欲しい。さら
に、各担任においてはいろいろろ
々な面での指導に少しでも役立て
たい。

「特考の復活である」という
声もあるが、かつて本校で行な
われていた特考は、東大入試にい
照準を合わせたものであり、今
も行なわれたテストとは、目的
・性格・程度をまったく異にし
ている。「評価に入れるべき
だ」という意見もあるようだが
が、われわれとしては、いわゆ
る評価とは切り離れた方にも、
精神的な負担をかけることが少
ないだろうと考えたからであ
る。以上われわれが意図してい
ることの概略を述べた。どうか
その趣旨を理解し協力してほしい。

教科委員

佐藤菊雄

ころの先生は、今はひとりもいませんね。記憶に残っている先生では学年主任だった斎藤先生がいます。『ブル』というあだ名で、授業の

せんでした。言われた事とは正しいと思っていました」

—現在の教育に関して。

「中学が高校の予備校化し、高校が大学の予備校化している。はつきり言って今の学生はかわいそうだ。僕らのころは、言われることをすな

う。昔は環境もよかつたけれど、今は公害をまともに受けている」

—先輩の卒業後は。

「海軍兵学校を出て、終戦後は農業学校を出て家業の牧場を継ぎました。昭和三十九年からのだを悪くして、牧場

戦争の暗い影

時には太いステッキを持っていて、先生がそばを通るとみな震えていました」

―在学中にそのころの教育に疑問を感じたことは。

「戦時中だったので思想は統一され、特に疑問は感じま

おにやつていればそれでよかったから。不自由はしたが、精神的には楽でした」

―母校の道路問題についてどうお考えですか。

「もう新宿を離れて、どこかいい所へ移転すべきだろう

では自分では働かず、今のところに入社したわけです」

―最後に、今の仕事に生きがいを感じますか。

「生きがいとはどういうことかよくわからない。なにしろ軍隊時代から、与えられた仕事をするよう教え込まれている。僕は、えらくなるとか金をもうけるとかではなく、仕事をせいいっぱいすることだけを考えている」

道路委、活動を再開

本年度にはいつてから、長い――動を開始した。

間沈黙を保ち続いていた生徒会
道路特別委員会（委員長―二年
C組奥田述夫）は、七月にはい
て、昨年七月、道路委設立当時
からの第二計画であった陳情の
期間中に、環境庁、都知

在計画されている、わが校周辺
の住民に対する意識調査は、住
民との共闘のため、他校や新宿
御苑管理事務所に対する調査
は、そういった団体との共闘の

生じた当初、職員会では道路は建設してもいいが、その代償として、第一グランドと第二グランドとを二分している三角地を校地にしてほしいという考え

ど、昨年まで一言の生徒の間で問題とされていたことが、急に全校生徒に広がりつつある。そこでこの「評価問題」に関して、田山校長に御意見をうかが

ではないか。

ところで、昔から評価のない時代はなかった。我々の時代にも『甲・乙・丙…』が…。しか

んど無視されている。だから、勉強は受験科目だけにがんばればいいという状態になる。そして、たった一回の試験であるから、どうして人も試験技術という

喜一愛せず、そういうものは自分のがんばり具合を示すものと考えて、一校長が、こんなことを言っていないのかもし

自分の受験とは関係ない授業はサボる者。全くため息がでるばかりである。▼そもその最も大きな誤りは、自分が今後も生き続ける、と想っていること

校長、評価を語る

に對して、三〇〇〇ずつを陳情書として提出した。

また、計画の第二段階として、文化祭までの間に、校外における諸調査の実施が計画されている。その主なる内容は、わが校周辺の住民に對しての道路建設に對する意識調査、各方面へのアンケート、他校（現在のところは、四谷二中だけが予定されている）及び新宿御苑管理事務所の道路建設に對する反對

ための行動であるといえよう。また、四谷二中の同窓会から申し出されている共闘の計画に対して大いに考慮すべきだと考えているのも当然である。そして、学園祭期間中に展示などを行なうのも、すべては生徒の関心を高めるための手段なのである。

一方、職員会側では、道路委の幅の広い反対運動に対して、反対する動きを見せている。その主な理由としては、たとえ共

であった。しかし、現在、その請願が認められない可能性が強いようであるため、三角地を校地とすることが認められなければ、道路建設には絶対反対という方向に動き出している。

このように職員会が条件つきではあるが、道路建設絶対反対の意見を打ち出したことは、この時点において、道路委設立以来初めて道路委と職員会との意見が一致したということであ

る。これは、道路委の幅の広い反対運動を押し進める上において、またないチャンスであることは言うまでもない。道路委では、積極的な活動を展開するものと思われる。

全般的に見て、道路建設反対運動は、道路委、職員会、校外の各団体の間で歩みよりが進められ、次第に団結化の方向に向かいはじめている。しかしながら、道路ができれば最も被害を

受けるであらう。当の生徒たちの関心度は意外に低く、いまだにひとごとの気分であるか、あるいは樂觀視の状態である。道路委は、昨年から何度が生徒の関心を高める活動をしているのだが、一向に効きめは現われてこない。結局、生徒の関心度が高くなること、それが、反対運動の堅い閉結のための、決定的ななきとなるであらう。

「『もちろん完全とは言えない。授業中などに、特別にペーパーテストなどを必要とせずに、先生が確実生徒の能力を把握するのが理想だが、そのためには、一クラス三十人が限度だろう。現在のようなマスプロ教育で……』」

中性点

「自分は何のため」に生きているのだろう」なんていきなり言いだしたら、きつと暑さのせいだついにオツムが「なんて思われるだろう。▼でも、我々はふだん

論説

先日、屋上でこっそりとタバコを吸っていた生徒たちが偶然見つかつて注意を受けた。この事件があつて以来、タバコと高校生のつながりというものゝが問題になり、父兄会や教師の間でもこのことが話し合われたりしたらしい。

の目の届かぬ校外においては、だから、今回の事件は、認識不足の教師や父兄が（もちろん、現状を正しく知っている先生もたくさんいるとは思ふが）大げさに騒いで事件となつた、しかし、実はごくありふれたことだつたと言える。

そこでこの考えを肯定する無かつたのである。だからタバコというよう

十 やすい、ということばは言え
てゐる。また、病氣にかかつても
の 直りにくい。その他、肺ガンに
を なりやすいとか、ニコチン、
驚 タールのいろいろな害も言わ
著 れている。これらは完全に証
ま 明されたのではないにして
全 も、医学的・統計的にみてそ
は の疑いがある。だから公署問
題と同じように「その疑いあ

けない。現在はまだタバコを吸っている人は全体の半分に満たないだろうが、成人諸君を見てみたまえ、大部分の人が吸っている。つまり、今吸っていない人でも、将来吸うようになる可能性が十分にあるわけである。法律では成人はタバコを吸ってよいことになっているが、何もおとな

「は、または吸つても間もないから、それを断つべきではない。タバコをなぜ吸うのか。吸者は言う。未知の物に對する好奇心・みんなもやっていゝししたしなみとして……。禁煙をやぶるスリル……など。しかし單なるこういふ気持ちで」

という考え方があるために、本来の正しい学力を診断するための評価を、逆にその評価、いい評価を求めて勉強するという状態になってしまっている。そこで今度は、評価の中で五段階評価というものがあるが、学歴偏重社会を、作る根源と考えたのではないだろうか。これは、日本の長い間続いた学歴偏重主義が、こうい

る。昔は東大にも地方から出てきた人が、都会の人と同じくたくさんはいっていた。しかし、今では半数以上が中流以上の家庭の子弟だ。つまり、家庭教師などつけて、入試技術を身につけることがあるのかも知れない。

そういう学生時代の入試その他をすべてなくすためには、国家試験だけにすればいいのだろ

よくこんなことをやってくれないなあ、というくらいに平気でいてもいいと思うのだが。」

これらの質問に対する応答からみて、現在の評価が完全でないということ、そして現在の大学入試制度に問題があることは認めるが、われわれ生徒がテストや内申書をあまり気にしすぎる点を改めるべきであることを

る。ほんとうにやらねばいけないのは何かそれを忘れてしまうのである。▼自分は生物学的に自然に生まれたんだ。別に生まれたくて生まれたんじゃない。ーなどと考えるから、いいかげんな、情性に押し流されたような生活を送ることになる。▼やはり自分がここまで成長してい

煙草・その利と害

つと問題になつてはいなかつたろう。というのは、すなわちこのことはすでに周知（とまではいかないかもしれない）か、我々はここで考へてみる

ものは肯定しな

タバコを吸

タバコは吸わなくてゐ

別にとらうてことがあ

はない。

ちり「あらういふは、すなわす
ず」「あゝなら」「と尋ねて矢の
ではないか。

から一段とその害が大きい、
ということは言えるだろう。
。前にも述べたようにそ

その影響が、むしろ自らの健康を害してゐる。それから、
からだに現われてくる時のこと
を考えてみるがいい。そう
いう人たちが禁煙のためにど
う苦悩しているのか。

い関係にあるのが大学入試だと考えている。その大学入試についてどう考えるか…。

学友や

設立直後から、学園祭の開催
期日を三日間からそれ以上に

つ死ぬかも知れない。だから、生きている間に最善をつくすように努力しよう」というくらいに、
 気持を持ってはどうだろうか。

学対、やる気十分

である。屋上でなくたつて、下を向いて歩いていけば、タバコの吸いがらなどたくさん落ちてゐる。このことから容易に現状を想像できやうというものだ。ましてや教師

そもそもタバコとは、熱帯アメリカ原産の植物で、喫煙するといふことはアメリカ原住民の、奇異な風習だつた。それがコロンブスによつてヨーロッパに伝えられたも

すなわちタバコの害の問題である。これにいろいろ学説があつてはしたことは言えないが、くとも、タバコを吸人は呼吸器系の病氣

たつてどうしてかとはなう。
「百害あって一利なし」とい
うことばがそのままでのま
るようなものである。それで
も吸う人は吸う。いや、こん
な他人事のような言い方はい

今タバコを吸っているおとなたちは、たいていいわれわれの年代のころから始めたのではないかと考えられる。吸い始めたらその味がなかなか忘れられないのであるから、

国がそういうことを知りながら、いかげんな対策しか打たずにいるのもんでもない話だが、それに同調してわれわれは自分を甘やかしているのか。

な問題があると思ふ。この關係になつた新文相、田中内閣にあつて随一のタカ派と言われているけれど、その記者会見では、大学入試は廢止して内申書や面接だけにしような方向へ改善し、高校教育では、体育や徳

策委員会が設立された。例年、委員のなり手が少ないために設立の遅れた同委員会であるが、今年は、委員の希望者が順調に出たため、さほどの遅れも見せず設立の運びとなった。

会にもちかけたり、昨年要望の多かった飲食物の自由販売を充分に考慮するなど、なかなか意欲的な活動を見せ、期待のもてる学対といったイメージを感じさせている。

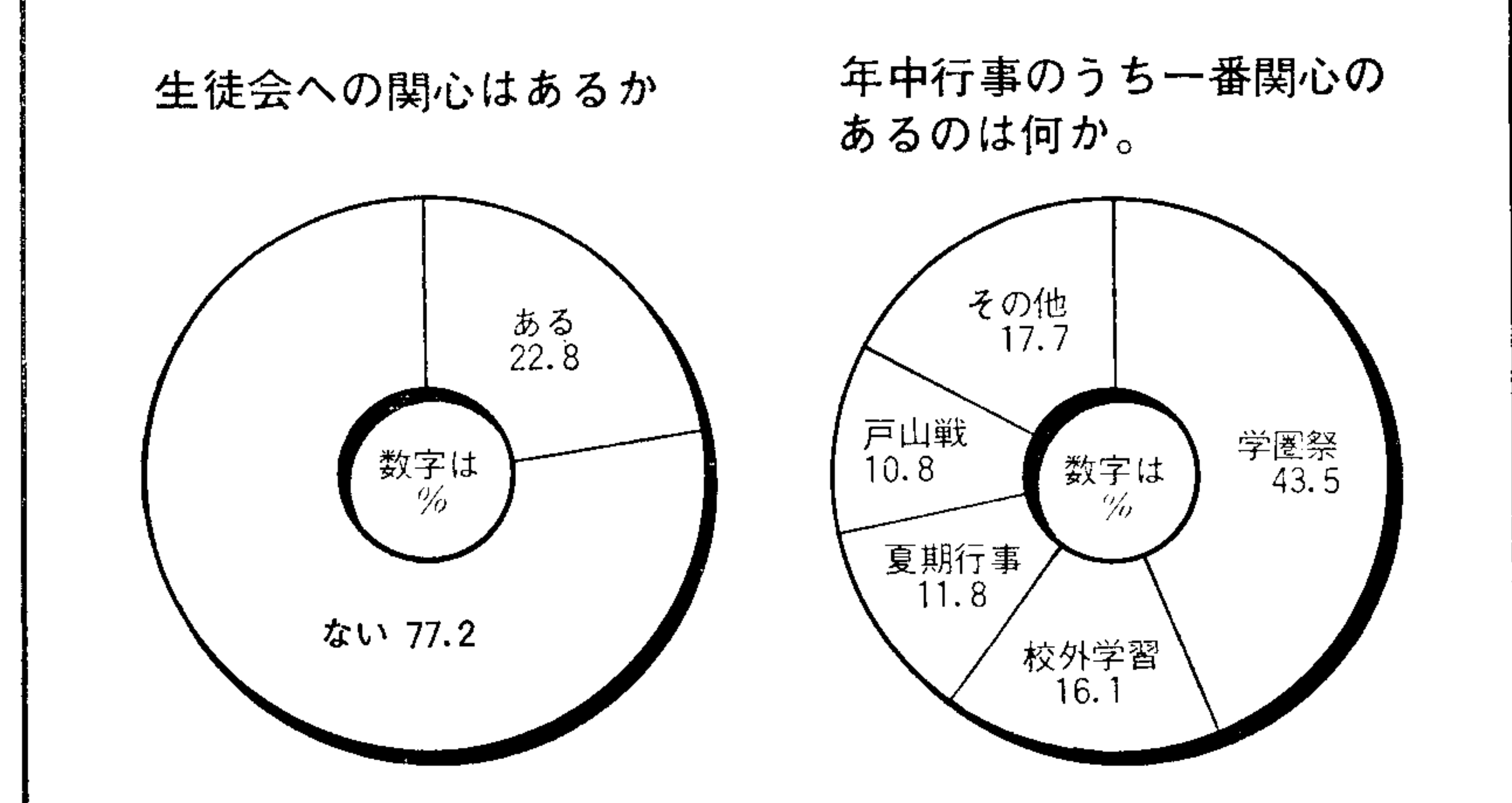
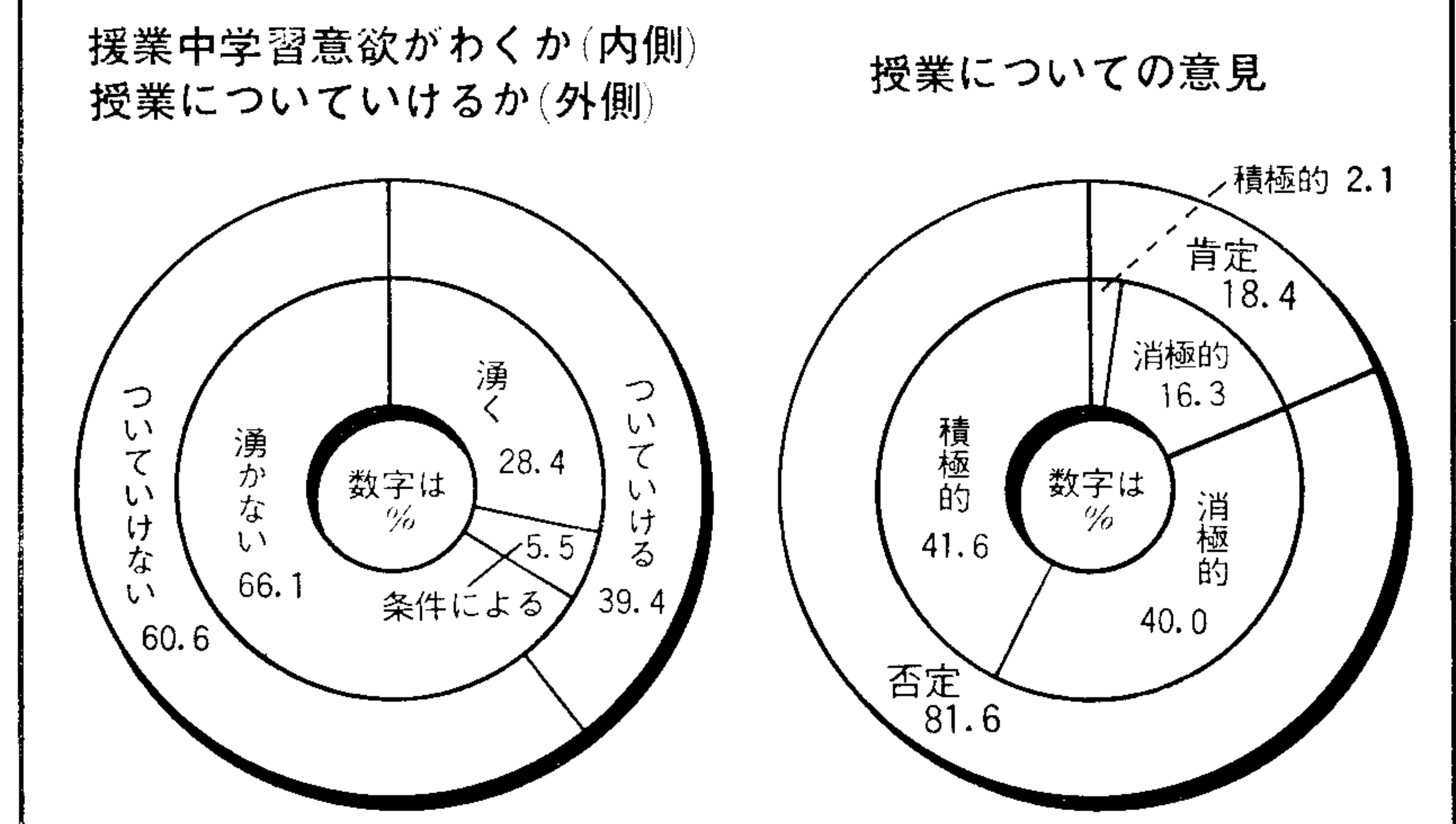
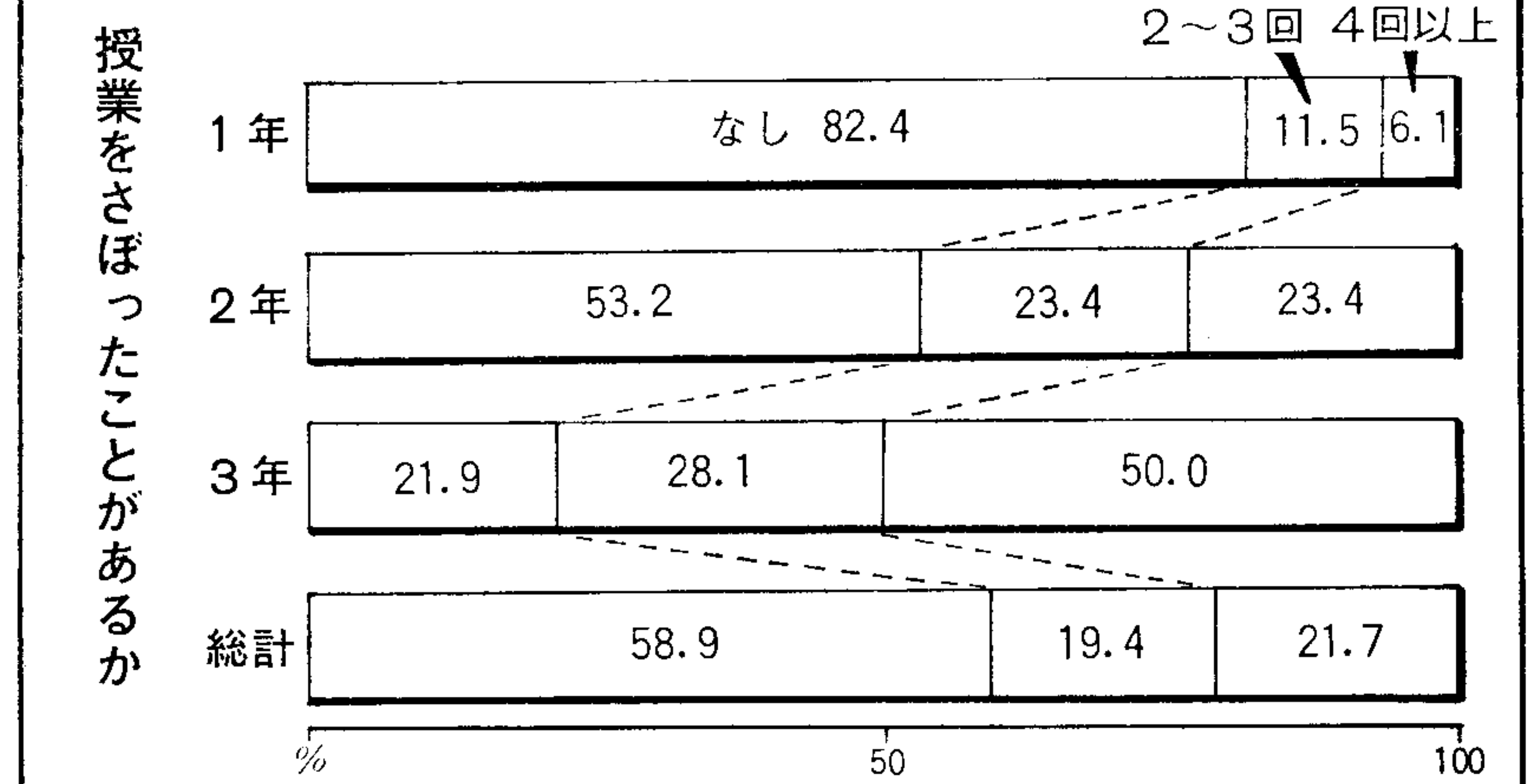
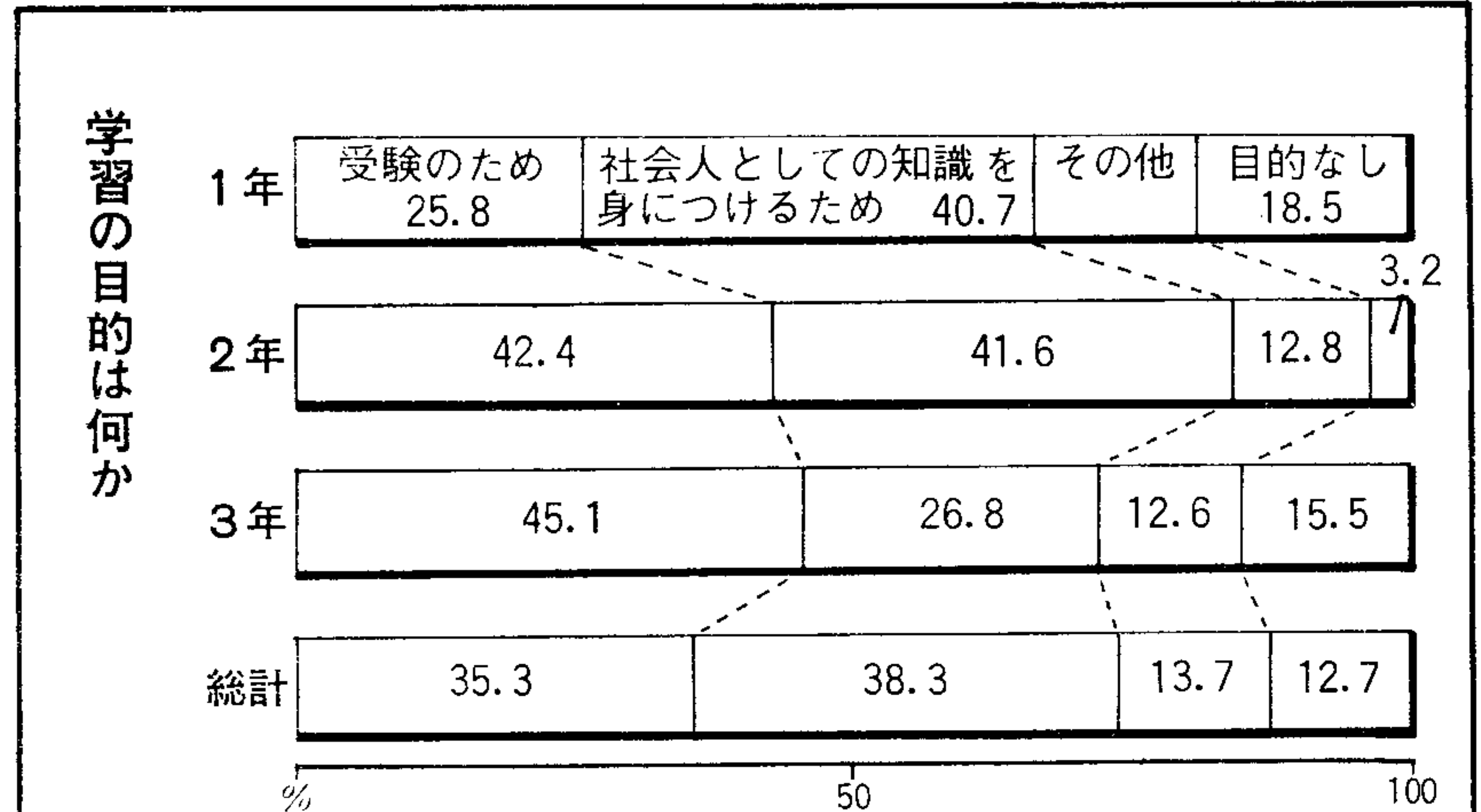
え方、ものの見方が小さすぎる
のではないか。別に現実的なも
のの見方を否定するわけではな
いが、やはり、人生の大きな流
れというものを見きわめた上で
の現実的な見方でないと。

授業についていけない!!

新聞研究部が今回実施したアンケートは、精神面に関するものであったが、その回収率は四割とあるわけであった。しかし、その集計結果は、学習の面で「授業中学習意欲が全く湧かぬ」「授業についていけない」といった意見が過半数となったほか、生徒会の面でも、「生徒会には関心がない」という意見が六割を越えていた。そういった面では、今回のアンケートは重要な問題を残したといえる。

六割が意欲を喪失

新聞研究部のアンケートは、九月十一日に実施されたが、そのうち、「学習」と「生徒会」に関する項目の集計が、九月十三日まで終了した。	その他	四・九	を身につけるため」という「将来型」と、「受験のため」という「現実型」が、ともに三〇％を越えている。これを、学年別に見ると、一年では、『将来型』が四〇％を占め、『現実型』の二六％を大きくリードしている。二年になると、両方とも四二％と、その差はほとんどなくなり、三年では、逆に『現実型』が四五％で、二七％の『将来型』に大差をつけている。これは、ごく一般的傾向といえる。しかし、「学習の目的など別ない」という意見が、全体の二割を占めていることと見のがすことはできない事実である。
今回のアンケートは、「学習」「クラブ活動」などから、「交友」「生きがい」にまで至る幅の広いものであったが、特に精神面に関する事項が重要視されていた。そうした精神面調査が影響したためか、アンケートの回収率は、四六・六、回収率は四一・六％とかなり低調なものとなつてしまつた。その内訳では、一年が、一九二名（五二・六％）、二年が、一七七名（四七・五％）と、全体の半数近い回収を取ることができたのに対し、三年は、回収が徹底せず、九七名（二五・三％）と、非常に低い値にとどまることとなつた。アンケートの結果は次のとおりである。（数値のうち、単位のないものは、すべてパーセント）	授業をさぼつたことがあるか？	六〇・六	次に、授業中の学習意欲の面では、六六％、全体の三分の二が学習意欲を失つてゐることに注目しなければならぬ。学年別では、入学以来まだ半年にもなつていない一年で、すでに六三％が学習意欲が湧かぬと訴へてゐる。それが一年になると、その傾向はさらにひどくなり、七割を越える。三年は受験意識が高まつてゐるためか、湧かぬものが六割以下にさがつてはいないものの、もし受験がないならぬもの、もし学習意欲喪失の傾向は、二年を上回り、最高値を示すのであつたらしく理解できるのが、さばりについてゐる。さばりの経験を調べてみると
――学習の目的は？	――授業に関する意見	二・一	
社会人として最低必要な知識を身につけるため	積極的肯定	二・一	
大学受験のため	消極的肯定	一六・三	
両親を安心させるため	積極的否定	四〇・〇	
高校卒業の資格をとるため	消極的否定	四一・六	



全体の半数は、なしと述べている。裏をかえせば、二人に一人はさぼりの経験者といえるのである。そこで、経験一・三回のものはすべて、なしの中に含め、常習者を、特に学年別の統計で見よう。すると、「なし」という者は、一年で九四％、二年で七七％、三年で五〇％となる。一年と二年の間で、常習者の増加が一七％の増加に達している。二年と三年の間で二七％(全体の四分の一)になるのである。学習意欲喪失の傾向は、学習の理解にまでも影響を与えている。「授業についていけない」という問いに対して、実に六〇

生徒会、関心は三割を下る

生徒会に「関心があるか?」

意見	数字は%
ある	二二・八
ない	七七・二

一年間行事のうち最も関心のあるのは次のどれか?

行事	数字は%
学園祭	四三・五
校外学習(遠足)	一六・一
夏期行事(館山・水上)	二一・八
戸山戦	一〇・三
合唱コンクール	六・九
運動会	四・四
マラソン大会	三・三
陸上競技会	一・八
生徒大会	一・五
生徒会役員選挙	〇・五

目先のことにばかり走らず、授業の本質を考えてほしい」といった先生に対する改善の要求が多かったが、「われわれ生徒自身、もっとやる気を出さねばならない」という生徒自身の授業態度への批判もあった。いずれにしても、こうした意見は明らかに授業不信を表わしているといわねばならない。

この学習の項全般をまとめてみると、わが校の授業不信は極度に広範囲にわたっており、それが半数を越える生徒に、学習意欲喪失を起させ、学習の理解にかなりの影響を与えている。特に関心は三割を下る。生徒自身も、そうした現状を感ずるに感じている。特に関心は三割を下る。生徒自身も、そうした現状を感ずるに感じている。特に関心は三割を下る。生徒自身も、そうした現状を感ずるに感じている。

回収率	四一・六
総計	四一・六
一年	五二・六
二年	四七・五
三年	二五・三
回収クラス数	二二クラス
総計	八クラス
一年	七クラス
二年	六クラス
三年	六クラス

でも表われている。

最も関心のある年間行事は何かとの質問の答えは、「学園祭」「遠足」「夏期行事」「戸山戦」といった、自分が実際に活動するような行事に関心が集中し、八〇％を越えているのに対して、「生徒大会」「生徒会役員選挙」といった、生徒会的色合いの濃い行事には、ほとんど関心が向けられていない。こうした点からも、生徒会への関心の低下は、かなり確実なものといえる。

また、生徒会に対する意見では、「生徒会は何をやっているのかかわらない」「生徒会は、一般生徒とかけ離れ、断絶状態だ」「生徒会は怠慢である」といったものがその大部分を占めており、生徒会支持の意見は、ほんの少数になっている。これらの意見から、生徒会への関心が低下したこの原因が、ただ単に生徒自身にやる気がなくなっただけでなく、生徒がいくらか関心を示しても、当の生徒会自体が、それに答えるだけの活動をしていないためともいえる。

生徒会の項全体からいえることは、生徒会への関心の低下はかなりの重傷となっており、その原因が、一方的に生徒の側へ無気力からくるものではなく、生徒会自身にも問題があるということである。

今回のアンケートにおける回収率での主要数値は、次の通りである。

回収率	数字は%
総計	四六・六(二二・二)
一年	五二・六(三六・五)
二年	四七・五(三七・三)
三年	二五・三(三八・三)

(括弧内は在籍数)

第25回

学園祭開幕

学対、画期的な試み

学園祭は、今年度で二十五回目を迎え、第一回から数えて、四半世紀を過ぎたことになった。

今年度の特徴を見てみると、昨年同様、演劇、展示といったものが、その主流を占めているが、新しい傾向として、人形劇、コンサートなどが行なわれていることに気づく。

まず演劇では、ひとりの、何らかの主張を内に含んだ創作劇が減少し、それにかわって、小説などを演劇化したストーリーを楽しむものが多くなってきた。

次に、展示について見てみると、各クラス、クラブとも、それぞれ独自の研究・調査を行っており、多彩な題材が顔を並べている。

また、本年度初めて行なわれる人形劇や影絵でも、それぞれの演出に、いろいろの工夫がこらされ、おもしろいものとなっている。

全般的に見て、今回の学園祭の内容は、各方面にわたる幅の広いものであるというよう。

ところで、今回の学園祭の準備では、画期的な試みが数多く行なわれたが、その反面、多くの問題をかかえる状態にもなった。

本年度、学対が実行した計画のうちで、最も画期的であったものは、「予算」に関するものであった。それについて述べてみると、まず、昨年まで製作していたプログラムの予算が、今年度は全くなかったためである。

これによって、広告費による収入はなくなったが、プログラム製作費用はそれ以上であるために、結果的には、支出を減らすことになった。この分は、クラス及びクラブへの学園祭支給金(昨年度よりクラスの場合で一

千円アップとなった)や、ボスター製作費などに回すようにとりはかられた。また、後夜祭をより充実させるために、後夜祭費を多くすることを考え、ボスターを自主作成することになった。

一方、生ずる問題もかなりあったため、準備は順調であったといえるわけにはいかない。

六月に入って、例年になくスムーズに、学対が成立した。しかし、成立直後、画期的計画であるところの、開催期日を現行の三日からそれ以上にするという試みを実行する上において、問題が生じ、それが発展して、今のままでは、学園祭は情性的に行なわれているにすぎない。何のために学園祭をするのか」というところまで広がった。

それに加えて、一度は参加中止を決定した一年E組が、先生のことばによって考え直し、再び参加を決めたことなどから、

「学園祭を計画し、実施していくのはだれなのか。生徒自身ではないのか」といった問題も起り、委員たちを非常に悩ませることになった。

その後、学園祭開催までの短い期間に、事務的な方面での諸問題のほとんどは解決し、学園祭は開幕の運びとなった。しかし、学対につきまとい「だれが、何のために学園祭をひらくのか」という問題は、いままなお、解決されずにいる。過去において、順調な発展を遂げてきた学園祭も、二十五回目にして、大きな曲り角にさしかかっていると言えよう。

幅の広い題材

今年度の学園祭は、その参加状況を見ると、クラス参加十九クラブ参加二十四、招待試合九と、多数が参加し、校内最大の行事の一端を見せている。

「日本の心の原点を探る」
「一年C組(一C)」
「喫茶店と写真展」
「一年E組(一E)」
「一年F組(一F)」
「無題」
「一年G組(一G)」
「漢字の成り立ちについて」
「一年A組(一A)」
「お化け屋敷」
「二年D組(二D)」
「神田の本屋」
「二年F組(二F)」

「日本の美」
「三年B組(三B)」
「模擬店と古本市」
「三年F組(三A)」
「模擬店」
「書道選抜(一A)」
「書のアピール」
「文芸部(二B)」
「部展・部誌販売」
「物理部(物理教室)」
「物理諸実験」
「写真部(三G)」
「写真部近作発表展」
「映画研究部(視聴覚教室)」
「自主制作映画とポスター展」

「美術部(美術教室)」
「美術展」
「新聞研究部(三C)」
「ANALYSIS OF SHI JUKU M.H.S」
「生物部(生物教室)」
「部展」
「華道部(朝陽会館)」
「部展」
「社会科研究部(三F)」
「部展」
「化学部(化学教室)」

「研究発表」
「地理歴史研究部」
「網を張る」
「天文部」
「プラネタリウム・星空への招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

学対からひとりと

さてみなさん、学園祭対策委員会が、学園祭を開催するためには、後夜祭の係ですが、練習会催したり、その他準備に忙しく働いているのです。

一口に学対といっても、たくさんある部門があります。例えば、皆さんが使用する教室を決めたり、ホールでの演劇の順番を決定したりするのは調整の係です。この係は外見より、大変な仕事です。特に今回は

みなさんの中でも指示に従わない人がいたため、調整は大変に苦戦しました。

さて、皆さんに配られるプリントなどは事務の係が作りますが、トイレの表示などがこの係の主な仕事です。

学園祭のおわった日に、後夜祭がありますが、季節はすれ納涼盆踊り大会と称して、大いに楽しむことができます。

みなさん、学園祭が終了するまで、みなさんの御協力をお願いいたします。

「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

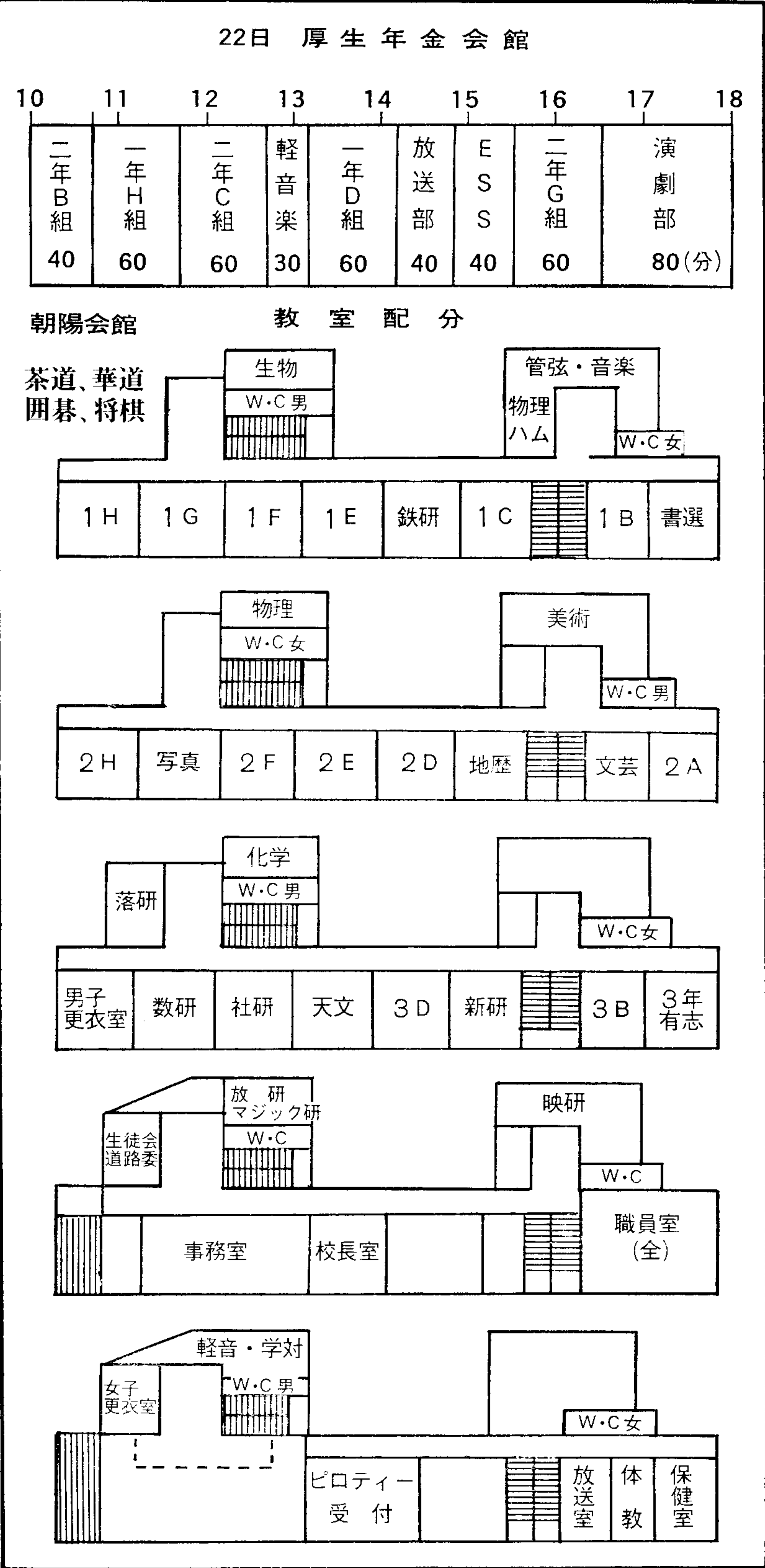
「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

「招待」
「数学研究部」
「数学史・ゲームの理論」
「マジック研究会」
「楽しい魔法の世界」
「鉄道研究会」
「地方中小私鉄の実態を探る」
「道路委員会」
「人間疎外・公害問題」
「人形劇・コンサート」
「一年A組(一H)」
「創作楽器による演奏会」
「二年E組(二E)」
「杜子春・笛」
「二年D組(二D)」
「忠臣蔵他」
「音楽部(音楽室)」
「演奏会」
「管弦楽部(音楽室)」
「管弦楽演奏会」
「管弦楽同好会」
「演奏会」
「落語研究部(地学教室)」
「落語公演」
「囲碁将棋部」
「対局戦」
「三年有志(三A)」

第25回学園祭は、今年22日から3日間にわたって行なわれている。今年度は、演劇、展示ばかりでなく、人形劇やコンサートなども行なわれ、その題材も各方面にわたり、幅広い学園祭になっている。しかし、一方では、「だれが何のために学園祭をするのか」という学園祭の存在を問う問題が生じてきている。学園祭は開催25年目にして、大きな壁にぶつかったと言える。



- 招待
- 数学研究部
- 「数学史・ゲームの理論」
- マジック研究会
- 「楽しい魔法の世界」
- 鉄道研究会
- 「地方中小私鉄の実態を探る」
- 道路委員会
- 「人間疎外・公害問題」
- 人形劇・コンサート
- 一年A組(一H)
- 「創作楽器による演奏会」
- 二年E組(二E)
- 「杜子春・笛」
- 二年D組(二D)
- 「忠臣蔵他」
- 音楽部(音楽室)
- 「演奏会」
- 管弦楽部(音楽室)
- 「管弦楽演奏会」
- 管弦楽同好会
- 「演奏会」
- 落語研究部(地学教室)
- 「落語公演」
- 囲碁将棋部
- 「対局戦」
- 三年有志(三A)

